Ⅱ．資料の整理と活用・普及

１．文化財資料の整理・保管

（１）埋蔵文化財の整理・保管

平成25年度の発掘調査と試掘調査、工事立会に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ約368箱とナイロン袋他である。遺物量は前年度より約234箱多い。これは、十六面・薬王寺遺跡第31次調査が大規模調査であったため、コンテナ数が296箱に及んだこと、寺内町遺跡第15次調査が津島神社石垣補強に伴う発掘調査で瓦が多量に出土したことによるものである。これら以外では10箱程度の調査が２件で、大半は１箱あるいはそれ以下である。多量に出土した十六面・薬王寺遺跡第31次調査の遺物内容は、主に弥生土器と古式土師器である。この十六面・薬王寺遺跡第31次調査の遺物については、多量であったため平成25年度内では処理できず、次年度に引き続き洗浄・整理することとなった。

【埋蔵文化財保管数１】

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後（土器・埴輪・瓦）
H25-01	十六面・薬王寺遺跡	第31次調査	弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・石器・木製品・銭貨・青銅鏡・玉類等	296箱	洗浄中
H25-02	十六面・薬王寺遺跡	第32次調査	土師器・瓦器・瓦質土器・中世陶器・木製品等	2箱	1箱
H25-03	保津・阪手道	第２次調査	土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器等	1箱	ナH
H25-04	十六面・薬王寺遺跡	第33次調査	土師器・須恵器・瓦器等	1箱	ナG
H25-05	筋違道	第３次調査	土師器・瓦器等	1箱	ナF
H25-06	金剛寺遺跡	第６次調査	土師器・瓦器・瓦質土器・近世陶磁器等	1箱	ナI
H25-07	唐古・鍵遺跡	第114次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器・石器等	12箱	8箱
H25-08	十六面・薬王寺遺跡	第34次調査	土師器・須恵器・近世陶磁器等	1箱	ナH
H25-09	小阪里中遺跡	第５次調査	土師器・須恵器・近世陶磁器等	1箱	ナH
H25-10	金剛寺遺跡	第７次調査	土師器・瓦器・瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1/3箱
H25-11	寺内町遺跡	第14次調査	土師器・瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	1箱	1/2箱
H25-12	佐味遺跡	第２次調査	弥生土器・土師器・瓦質土器・輸入磁器等	13箱	16箱
H25-13	寺内町遺跡	第15次調査	土師器・瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	33箱	30箱
H25-14	宮古北遺跡	第17次調査	弥生土器・土師器・須恵器等	1箱	ナF
S-201301	十六面・薬王寺遺跡	試掘調査	土師器・須恵器・瓦器等	ナ小5	ナF
S-201302	十六面・薬王寺遺跡	試掘調査	近世陶磁器等	ナ小3	ナE
S-201303	十六面・薬王寺遺跡	試掘調査	土師器・瓦等	ナ小5	ナF
R-201315	羽子田遺跡	工事立会	弥生土器・土師器等	ナ小2	ナF
R-201316	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・須恵器・石器等	1箱	ナH

※　遺物量の表記の箱とは、長さ56㎝・幅36㎝・深さ15㎝の容量を標準として換算している。また、ナ（小・E・F・H）は、ナイロン袋の大きさを表している。

また、再整理事業としては、唐古・鍵遺跡第34次調査を実施し、各種土器のPick upをおこなった。これら再整理において、当初の整理では見逃していた北部九州産の須玖式の甕片を見つけることができた。これについては、11月15日に報道提供し、テレビ・新聞等で大きく取り上げられた。

【埋蔵文化財保管数２】

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後（土器・埴輪・瓦）
R-201204	唐古・鍵遺跡 唐古氏居館推定地	工事立会	弥生土器・瓦等	1箱	7箱
R-201207	為川南方遺跡	工事立会	土師器・須恵器	1袋（小）	ナ小1
R-201208	常宝寺遺跡	工事立会	土師器	1袋（小）	ナ小1
R-201209	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器・土師器等	1箱	ナ小3
R-201210	富本遺跡	工事立会	土師器・瓦質土器・近世陶磁器等	1袋（中）	ナ中1
R-201211	唐古・鍵遺跡	工事立会	弥生土器	1袋（小）	ナ小1
R-201242	多遺跡	工事立会	弥生土器・土師器・瓦等	3箱	2箱

【土器以外の遺物のサンプルの保管数量（該当次数のみ）】

調査番号	遺跡名	調査次数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	銭貨	ガラス玉	木	石	獣骨・貝類	種子	炭化米
H25-01	十六面・薬王寺遺跡	第31次調査	洗浄中												
H25-02	十六面・薬王寺遺跡	第32次調査	－	－	2	3	－	－	－	－	－	2	－	6	－
H25-03	保津・阪手道	第２次調査	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
H25-04	十六面・薬王寺遺跡	第33次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
H25-06	金剛寺遺跡	第６次調査	－	3	1	3	－	－	－	－	－	2	－	－	－
H25-07	唐古・鍵遺跡	第114次調査	1	8	－	573 +⑧	－	4	－	－	－	12	10	－	－
H25-09	小阪里中遺跡	第５次調査	－	2	－	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－
H25-10	金剛寺遺跡	第７次調査	1	2	－	1	－	－	－	－	－	1	－	－	－
H25-11	寺内町遺跡	第14次調査	－	2	－	1	－	1	－	－	－	43	－	－	－
H25-12	佐味遺跡	第２次調査	1	10	9	25	－	3+ 鉱滓3	－	－	6	26	－	18 +②	－
H25-14	宮古北遺跡	第17次調査	－	－	9	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－
計			3	27	21	608 +⑧	0	9+ 鉱滓3	0	0	9	286	10	24 +②	0

※　点数のアラビア数字+①の①は、20点以上を１件としてカウントしたもの。

【Pickupした土器・形象埴輪の数量（該当次数のみ）】

調査番号	遺 跡 名	調査次数	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	瓦
H25-01	十六面・薬王寺遺跡	第 31 次調査	洗浄中												
H25-07	唐古・鍵遺跡	第 114 次調査	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4	3
H25-09	小阪里中遺跡	第５次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
H25-10	金剛寺遺跡	第７次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2
H25-11	寺内町遺跡	第 14 次調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
S-201301	十六面・薬王寺遺跡	試掘調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1
計			0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8

この須玖式土器については秋季企画展で展示するとともに、企画展終了後には常設展示「交流と戦い」コーナーに移して展示した（本書第Ⅲ部参照）。この土器の資料紹介を含めてＳＤ－102Ｂから出土した土器群を本年報の第Ⅳ部で報告した。この中ではこの土器と共伴した土器群を示すとともに、縦型流水文を描いた細頸壷、鋸歯文を描いた器台、瀬戸内系の壷や伊勢湾岸地域の条痕甕、粘土補修された台形土器、布圧痕のある大和形甕底部など再整理に伴いピックアップした土器も掲載した。

唐古・鍵遺跡第34次調査出土注口土器

また、第34次調査ではこれまでも指摘していたところではあるが、特に奈良盆地東南部産の土器が多いことを再認識することとなった。これらの多くは大環濠の最終堆積層であるＳＤ－102から出土しており、壷・甕・鉢・高坏・手焙形土器の各器種で完形土器が多いのが特徴である。唐古・鍵遺跡のこれまでの調査の中でも、完形の搬入土器がまとまって出土するような状況を示すものはなく、注目されるところである。この他にも類例の少ない注口土器なども出土している。

【再整理事業に伴いPickupした土器・形象埴輪等の数量】

遺 跡 名	編年土器	搬入土器	絵画土器	記号土器	文様土器	特殊土器	縄文土器	古墳時代土器	古代土器	中世土器	近世土器	形象埴輪	軒丸瓦	土製品	焼土塊
唐古・鍵遺跡 第 34 次調査	8	47	1	6	13	22	－	1	－	－	－	－	1	－	9

（２）木製品の樹種同定と保存処理

平成25年度においては、唐古・鍵遺跡やその他町内遺跡の木製品の樹種同定41点を実施した。また、保存処理事業としては、17点を委託し高級アルコール法で処理した。町直営では、71点をラクチトール・トレハロース含浸法等で処理をおこなった。

また、３ヶ年継続で実施した唐古・鍵遺跡第93次調査出土の大型建物柱の再処理が25年度で完了し、26年３月に納品された。

【樹種同定一覧】

№.	遺　跡　名	次数	製品コード	製品名	台帳№.	遺構名	層位	取上番号	結果（学名／和名）	
1	唐古・鍵遺跡	14	KRK-014-00001W	用途不明品	10	SK-101	下層		*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
2	唐古・鍵遺跡	14	KRK-014-00002W	用途不明品	8	SK-101	下層		broad-leaved tree	広葉樹
3	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00007W	部材	142	SD-103			*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
4	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00008W	部材	142	SD-103			*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
5	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00013W	不明容器	100	SD-102			ring-popous wood	環孔材
6	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00014W	不明容器	149	SD-103			*Morus australis* Poiret	ヤマグワ
7	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00015W	膝柄横斧柄	116	SD-102	最下層		－	同定不可
8	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00021W	膝柄横斧柄	329	SD-101			－	同定不可
9	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00024W	膝柄斧柄未成品	44	SD-101			broad-leaved tree	広葉樹
10	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00025W	板Ａ	44	SD-101			*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
11	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00026W	不明容器	225	SX-102			ring-popous wood	環孔材
12	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00028W	不明容器	262	SD-101			*Morus australis* Poiret	ヤマグワ
13	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00029W	板杭	224	SX-102			*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
14	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00031W	匙未成品	224	SX-102			*Quercus* sect. *Aegilops*	コナラ属クヌギ節
15	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00032W	用途不明品	79	SD-101			*Cephalotaxus harringtonia* K. Koch	イヌガヤ
16	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00034W	用途不明品	44	SD-101			*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
17	唐古・鍵遺跡	16	KRK-016-00036W	丸太杭	142	SD-103			－	同定不可
18	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00029W	匙	701	SD-204	第５層		*Cephalotaxus harringtonia* K. Koch	イヌガヤ
19	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00064W	丸太杭	1122	SD-204	第20層		*Morus australis* Poiret	ヤマグワ
20	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00067W	用途不明品	478	SD-203	第４（下）層		*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc	カヤ
21	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00051W	板Ａ	273	SK-151	第４層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
22	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00052W	板Ａ	273	SK-151	第４層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
23	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00053W	板Ａ	273	SK-151	第４層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
24	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00054W	板Ａ	104	SD-109	第２層		*Chamaecyparis pisifera* Endl.	サワラ
25	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00055W	板Ａ	338	SK-153・154	第５層		*Chamaecyparis pisifera* Endl.	サワラ
26	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00056W	板Ａ	218	SD-103	第３層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
27	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00057W	用途不明品	193	SK-113	第２層		－	同定不可
28	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00058W	板Ａ	254	SK-151	第４層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
29	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00059W	板Ａ	177	SK-113	第１層		*Salix*	ヤナギ属
30	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00060W	板Ａ	273	SK-151	第４層		*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
31	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00062W	用途不明品	307	SK-151	第５層		－	同定不可
32	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00045W	角杭	859	SK-2130	第７（下）層		*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
33	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00049W	棒Ａ	479	SK-2114	第7-b層		*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属
34	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00050W	不明建築材未成品	1130	SK-2213	第２層		*Camellia japonica* Linn.	ヤブツバキ
35	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00051W	棒Ａ	807	SK-2130	第７層		broad-leaved tree	広葉樹
36	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00054W	棒Ａ	1114	SK-2116	第５（下）層		－	同定不可
37	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00055W	不明建築材	806	SK-2130	第７層		*Abies*	モミ属
38	十六面・薬王寺遺跡	30	JRY-030-00002W	用途不明品	396	SK-3154	第３層		*Viburnum*	ガマズミ属
39	十六面・薬王寺遺跡	30	JRY-030-00039W	用途不明品	69	SK-3052	第５（下）層		*Deutzia*	ウツギ属
40	十六面・薬王寺遺跡	31	JRY-031-00008W	用途不明品	1166	SK-178	第３層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ
41	十六面・薬王寺遺跡	31	JRY-031-00009W	用途不明品	1166	SK-178	第３層		*Chamaecyparis obtusa* Endl.	ヒノキ

【保存処理木製品一覧】

No.	遺　跡　名	次数	製品コード	製品名	樹　種	台帳No.	遺構名	層　位	取上番号	保存処理方法	保存処理機関
1	唐古・鍵遺跡	13	KRK-013-00083W	不明容器	コナラ属アカガシ亜属	416	SD-06C	第 9-c 層		ラクチ法	町直営
2	唐古・鍵遺跡	13	KRK-013-00084W	横杓子	ケヤキ	416	SD-06C	第 9-c 層		ラクチ法	町直営
3	唐古・鍵遺跡	15	KRK-015-00005W	不明容器	ヤマグワ	23	SD-02	下層		ラクチ法	町直営
4	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00023W	板Ａ	コナラ属アカガシ亜属	1118	SD-204	第 6 層		ラクチ法	町直営
5	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00024W	盤	ケヤキ	873	SD-1104	第 2 層		ラクチ法	町直営
6	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00028W	用途不明品	クスノキ科	550	SK-101	第 7（下）層	W-726	ラクチ法	町直営
7	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00037W	匙	広葉樹	809	SD-204	第 9（上）層		ラクチ法	町直営
8	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00039W	用途不明品	サクラ属	756	SD-204	第 8 層		ラクチ法	町直営
9	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00056W	板Ｂ	サワラ	481	SD-202	第 3 層	W-303	ラクチ法	町直営
10	唐古・鍵遺跡	19	KRK-019-00070W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	813	SD-204	第 9 層		ラクチ法	町直営
11	唐古・鍵遺跡	20	KRK-020-00047W	不明建築材	カヤ	23	中世大溝	第 3-c 層		ラクチ法	町直営
12	唐古・鍵遺跡	20	KRK-020-10001W	棒Ａ	ヒノキ属	263	SX-101	第 4 層	W-401	ラクチ法	町直営
13	唐古・鍵遺跡	21	KRK-021-00001W	横鍬未成品		3	SD-02	第 3 層	W-301	ラクチ法	町直営
14	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00065W	不明容器	ヤマグワ	266	SK-151	第 3 層		ラクチ法	町直営
15	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00066W	用途不明品	サンプリング不可	230	SD-103	第 4 層		ラクチ法	町直営
16	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00067W	用途不明品	モミ属	255	SD-106	第 2 層	W-205	ラクチ法	町直営
17	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00068W	棒Ａ	散孔材	275	SD-203	第 5 層	W-505	ラクチ法	町直営
18	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00069W	用途不明品	広葉樹	470	SK-113	第 3 層	W-309	ラクチ法	町直営
19	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00070W	板Ａ	コナラ属アカガシ亜属	414	SK-123	第 8 層		ラクチ法	町直営
20	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00071W	棒Ａ	ヤマグワ	317	SK-151	第 4 層	W-483	ラクチ法	町直営
21	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-00072W	用途不明品	ヒノキ	449	SK-113	第 6（下）層		ラクチ法	町直営
22	唐古・鍵遺跡	23	KRK-023-10001W	板Ｂ	コナラ属アカガシ亜属	323	SK-151	第 5 層		ラクチ法	町直営
23	唐古・鍵遺跡	24	KRK-024-00009W	用途不明品	ヒノキ	195	SK-103	第 5 層		ラクチ法	町直営
24	唐古・鍵遺跡	24	KRK-024-00013W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	196	SK-103			ラクチ法	町直営
25	唐古・鍵遺跡	24	KRK-024-00015W	用途不明品	ヒノキ	193	SK-103	第 5・6 層		ラクチ法	町直営
26	唐古・鍵遺跡	26	KRK-026-00009W	棒Ｂ	ヒノキ	413	SK-1204	第 2 層		ラクチ法	町直営
27	唐古・鍵遺跡	26	KRK-026-00010W	部材	ヒノキ	258	SK-3201	第 2 層		ラクチ法	町直営
28	唐古・鍵遺跡	34	KRK-034-00004W	板Ｂ	樹皮	111	SK-103	第 2 層	W-201	ラクチ法	町直営
29	唐古・鍵遺跡	34	KRK-034-00005W	板Ｂ	コナラ属アカガシ亜属	35	SD-101	第 4（下）層		ラクチ法	町直営
30	唐古・鍵遺跡	34	KRK-034-00008W	又鍬	不可	111	SK-103	第 2 層	W-206	ラクチ法	町直営
31	唐古・鍵遺跡	34	KRK-034-00009W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	88	SD-102	第 a 層	その 1	ラクチ法	町直営
32	唐古・鍵遺跡	36	KRK-036-00003W-1	桶底板	スギ	5	SD-01	第 2（下）層		ラクチ法	町直営
33	唐古・鍵遺跡	36	KRK-036-00003W-2	桶底板	スギ	3	SD-01	第 2（下）層		ラクチ法	町直営
34	唐古・鍵遺跡	36	KRK-036-00005W	桶	スギ	9	SD-01	第 2（下）層		ラクチ法	町直営
35	唐古・鍵遺跡	36	KRK-036-00010W	板Ｂ	ヒノキ	2	SD-01	第 2 層		ラクチ法	町直営
36	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00039W	用途不明品	コナラ属アカガシ亜属	1110	SK-2116	第 4 層		ラクチ法	町直営
37	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00068W	鋤の身	コナラ属	1083	SD-2202B	第 4 層		ラクチ法	町直営
38	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00069W	鍬・鋤の身	コナラ属	1010	SK-2122	第 25 層	W-2501	ラクチ法	町直営
39	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00070W	盾	広葉樹	214	SK-214	第 3 層		ラクチ法	町直営
40	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00094W	板Ａ	コナラ属アカガシ亜属	1114	SK-2116	第 5（下）層		ラクチ法	町直営
41	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00097W	棒Ｂ	ヤマグワ	799	SX-4201	第 1 層		ラクチ法	町直営
42	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00100W	用途不明品	ヤマグワ	1090	SK-2116	第 5 層		ラクチ法	町直営
43	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00101W	棒Ａ	サクラ属	302	SX-2101	第 8 層		ラクチ法	町直営
44	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00105W	用途不明品	不可	1034	SK-2139	第 4 層		ラクチ法	町直営
45	唐古・鍵遺跡	37	KRK-037-00106W	用途不明品	ヒノキ属	999	SK-2122	第 20 層		ラクチ法	町直営
46	唐古・鍵遺跡	42	KRK-042-00015W-1	円形曲物（井戸枠）		65	SE-02		下段井戸枠	－	町直営
47	唐古・鍵遺跡	42	KRK-042-00015W-2	円形曲物（井戸枠）		65	SE-02		上段井戸枠	ラクチトールコーティング	町直営
48	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00007W	平鍬	身部：コナラ属アカガシ亜属 柄部：コナラ属アカガシ亜属	1266	SD-151B	第 7 層	W-702	ラクチ法	町直営
49	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00086W-1	有頭棒	コナラ属アカガシ亜属	1555	SD-151BN	第 8 層（下）	W-862	ラクチ法	町直営
50	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00086W-2	有頭棒	コナラ属アカガシ亜属	1555	SD-151BN	第 8 層（下）	W-863	ラクチ法	町直営
51	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00101W	有頭棒	コナラ属アカガシ亜属	1555	SD-151BN	第 8 層（下）	W-879	ラクチ法	町直営
52	唐古・鍵遺跡	61	KRK-061-00114W	用途不明品	カヤ	1492	SD-151BN	第 8 層	W-801	ラクチ法	町直営

53	唐古・鍵遺跡	76	KRK-076-00009W	鳥形木製品	コウヤマキ	210	SD-1105	第2層	W-205	高級アル法	吉田生物研究所
54	唐古・鍵遺跡	76	KRK-076-00010W	柱	コナラ属コナラ節	462	SK-1113	第5層	W-501	高級アル法	吉田生物研究所
55	唐古・鍵遺跡	76	KRK-076-00012W	柱（祭祀具）	コウヤマキ	210	SD-1105	第2層	W-201	高級アル法	吉田生物研究所
56	唐古・鍵遺跡	76	KRK-076-00014W	柱（祭祀具）	ヒノキ	412	SD-1105	第2層	W-211	高級アル法	吉田生物研究所
57	唐古・鍵遺跡	79	KRK-079-00004W	鍬・鋤の身	コナラ属 アカガシ亜属	501	SD-101C	第14-b層		ラクチ法	町直営
58	唐古・鍵遺跡	79	KRK-079-00007W	木錘	ケヤキ	221	SK-102	第4層	W-402	ラクチ法	町直営
59	唐古・鍵遺跡	79	KRK-079-00024W	用途不明品	ヒノキ科	398	SD-101B	第7層		ラクチ法	町直営
60	唐古・鍵遺跡	88	KRK-088-00001W	鍬未成品	広葉樹	53	SK-2105	第2層		ラクチ法	町直営
61	唐古・鍵遺跡	89	KRK-089-00002W	盾	モミ属	583	SD-1114C	第10層		ラクチ法	町直営
62	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00001W	膝柄斧柄	コナラ属 アカガシ亜属	542	SK-201	第2層		高級アル法	吉田生物研究所
63	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00002W	平鍬	身部：コナラ属 アカガシ亜属 柄部：コナラ属 アカガシ亜属	206				高級アル法	吉田生物研究所
64	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00004W	鋤の身	ブナ科コナラ属 アカガシ亜属	320	SD-101C	第13層		高級アル法	吉田生物研究所
65	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00006W	盾	スギ	542	SK-201	第2層		高級アル法	吉田生物研究所
66	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00008W	合子	ヤマグワ	452				高級アル法	吉田生物研究所
67	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00011W	不明容器	クワ科クワ属	550	SK-201	第2層		高級アル法	吉田生物研究所
68	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00012W	不明容器	ヤマグワ	550	SK-210	第2層		高級アル法	吉田生物研究所
69	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00013W	不明容器	ヤマグワ	548	SK-210	第1層		高級アル法	吉田生物研究所
70	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00014W	横杓子未成品	ヤマグワ	529	SK-201	第4層	W-401	高級アル法	吉田生物研究所
71	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00025W	不明建築材	ヤマハゼ類	409	SK-128	第4層		高級アル法	吉田生物研究所
72	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00028W	栓	サカキ	536	SK-203	第3層	W-301	高級アル法	吉田生物研究所
73	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00029W	用途不明品	イヌガヤ	530	SK-201	第5層		高級アル法	吉田生物研究所
74	唐古・鍵遺跡	98	KRK-098-00031W	横杓子未成品	ヤマグワ	550	SK-210	第2層		高級アル法	吉田生物研究所
75	保津・宮古遺跡	1	HTM-001-00003W	曲柄平鍬	未同定	19	SK-101	第4層	W-401	ラクチ法	町直営
76	保津・宮古遺跡	39	HTM-039-00008W	円形曲物 (井戸枠)	未同定	61	SK-2051	第9層	W-901	ラクチ法	町直営
77	保津・宮古遺跡	39	HTM-039-00009W	円形曲物 (井戸枠)	未同定	60	SK-2051	第8層	W-801	ラクチ法	町直営
78	保津・宮古遺跡	39	HTM-039-00010W	円形曲物 (井戸枠)	未同定	59	SK-2051	第7層	W-701	ラクチ法	町直営
79	保津・宮古遺跡	39	HTM-039-00011W	円形曲物 (井戸枠)	未同定	50	SK-2051	第6層	W-601	ラクチ法	町直営
80	常楽寺推定地	5	JRJ-005-00002W	下駄	ヒノキ（本体・歯）	26	SD-01	第2層	W-201	ラクチ法	町直営
81	十六面・薬王寺遺跡	30	JRY-030-00010W	円形曲物 (井戸枠)	未同定	75	SK-3052	第7層	W-701	ラクチ法	町直営
82	十六面・薬王寺遺跡	30	JRY-030-00011W	円形曲物 (井戸枠)	未同定	75	SK-3052	第7層	W-702	ラクチ法	町直営
83	十六面・薬王寺遺跡	30	JRY-030-00012W-1	円形曲物 (井戸枠)	未同定	48	SK-3052	第6層	W-601	ラクチ法	町直営
84	十六面・薬王寺遺跡	30	JRY-030-00012W-2	円形曲物 (井戸枠部材)	未同定	48	SK-3052	第6層	W-601	ラクチ法	町直営
85	多遺跡	22	OOI-022-00001W-1	鍬未成品	コナラ属 アカガシ亜属	385	SD-1101	第6層	W-601	ラクチ法	町直営
86	多遺跡	22	OOI-022-00001W-2	鍬未成品	コナラ属 アカガシ亜属	382	SD-1101	第6層		ラクチ法	町直営
87	多遺跡	22	OOI-022-00006W	用途不明品	ヤマグワ	263	SK-2102	第5層		ラクチ法	町直営
88	多遺跡	22	OOI-022-00007W	用途不明品	ヤマグワ	366	SK-2102B	第8層		ラクチ法	町直営

※ラクチ法はラクチトール・トレハロース含浸法、高級アル法は高級アルコール処理法を略す。

（３）図面・写真の保管と資料撮影、写真のデジタル化

発掘調査に伴う現場写真と図面については、下表のとおりである。また、写真のデジタル化は、唐古・鍵考古学ミュージアム秋季企画展の展示品関係と過去の発掘速報展のカラーポジ４×５フィルム93枚をデジタル化した。

【図面・写真の保管数量】

調査番号	遺跡名	調査次数	図面		35㎜			
					カラーポジ		モノクロネガ	
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数
H25-01	十六面・薬王寺遺跡	第31次調査	190	整理中	60	1,181	32	1,177
H25-02	十六面・薬王寺遺跡	第32次調査	8	4	4	65	2	65
H25-03	保津・阪手道	第２次調査	3	－	2	32	1	32
H25-04	十六面・薬王寺遺跡	第33次調査	3	－	2	26	1	24
H25-05	筋違道	第３次調査	3	－	2	29	1	29
H25-06	金剛寺遺跡	第６次調査	4	－	2	35	1	35
H25-07	唐古・鍵遺跡	第114次調査	9	－	3	56	2	55
H25-08	十六面・薬王寺遺跡	第34次調査	4	－	2	31	1	31
H25-09	小阪里中遺跡	第５次調査	4	－	1	13	1	12
H25-10	金剛寺遺跡	第７次調査	4	－	2	25	1	24
H25-11	寺内町遺跡	第14次調査	3	－	1	19	1	20
H25-12	佐味遺跡	第２次調査	16	－	8	148	4	148
H25-13	寺内町遺跡	第15次調査	8	－	5	119	4	119
H25-14	宮古北遺跡	第17次調査	9	1	2	37	1	36
計			268	5	96	1,816	53	1,807

【写真撮影一覧】

種　類	資料名・内容	フィルム（４×５）	カット数	備　考
考古遺物	唐古・鍵遺跡 弥生土器	カラーポジ	54	秋季企画展「弥生遺産～唐古・鍵遺跡の土器～」および重要考古遺物選定用
	唐古・鍵遺跡他 木製品	カラーポジ	10	保存処理用
		モノクロネガ	51	
計		カラーポジ	64	
		モノクロネガ	51	

（4）図書の受領

平成25年度は、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムに関係諸機関・個人（272機関等）から881冊の図書の寄贈を受けた。また、図書の購入は12冊である。

【図書の受領】

分　類	報告書	概　報	現説資料	年　報	館　報	図　録	パンフレット	紀　要	会　報
冊　数	373	59	1	68	6	58	48	48	1

分　類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑　誌	目　録	その他	合　計
冊　数	6	63	6	11	12	2	57（2）	819

※　上記冊数には、２部以上の寄贈62冊を含んでいない。　※（　）の数字は、CD-ROM1枚、DVD1枚の枚数である。

（5）資料の寄贈

平成25年度は、２件の資料の寄贈があった。１件は鍵在住の松井佳一氏から唐古・鍵遺跡の弥生土器や石器等コンテナ２箱分の寄贈を受けた。これらの遺物は、佳一氏の祖父が自宅の畑地から採集したものと伝えられた遺物である。弥生土器は大和第Ⅱ～Ⅵ様式の摩耗した土器片で、唐古・鍵遺跡では通常みられるものである。注目されるものに盾形埴輪や円筒埴輪片がある。小片であるが５世紀代の埴輪と考えられるもので、遺跡南西部の第82・86次調査でもこの時代の埴輪が出土していることから一連のものと考えられるであろう。この他、中世と思われる軒平瓦１点や近世の陶磁器片や瓦質土器片がある。ピックアップし別収納したものに、尖頭器・石鏃・石剣・スクレイパー・砥石・用途不明石製品・キセル各１点がある。

多忠記氏からは、弥生土器・土師器・須恵器等コンテナ２箱分の寄贈を受けた。これらの遺物の中には長年水中にあり褐色の鉄分が付着したようなものがあり、飛鳥川の河川改修時に採集されたらしい土器がある。また、須恵器大甕片は神社東側水路の改修工事時に採集されたものというが、詳細は不明となっている。弥生土器は、大和第Ⅱ－１様式と大和第Ⅵ－３様式の土器が多い。その他、中期後半の甕等も若干含まれている。また、土師器では布留１式の土器がある。これらの遺物はこれまでの多遺跡の継続年代と矛盾しない資料である。時期は不明であるが、ミニチュアの鉢が１点ある。

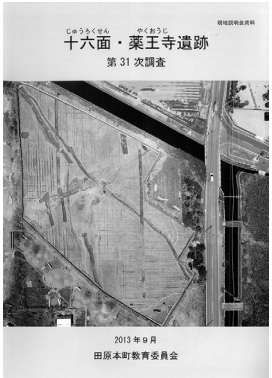
【受贈資料】

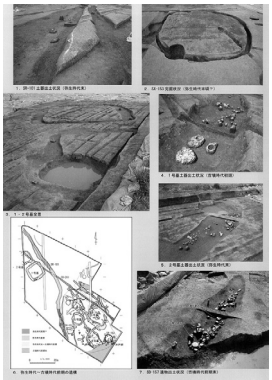
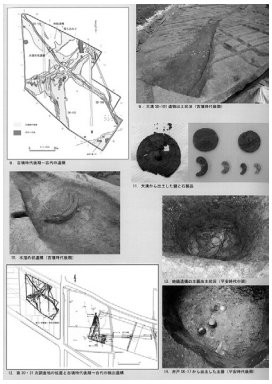
資料名	数　量	寄贈者	備　考
弥生土器・石器ほか	遺物箱　２箱	松井 佳一	大字鍵内畑地より採集
弥生土器・土師器・須恵器ほか	遺物箱　２箱	多　忠記	

２．遺跡・文化財の保護・啓発

（１）発掘調査地の現地説明会

平成25年度において実施した十六面・薬王寺遺跡第31次調査について、現地説明会を開催した。本調査は約4,700㎡という大規模調査であり、弥生時代から中世にかけての様々な成果がみられた。このため、調査終盤の９月14日（土）の午前と午後の２回にわたり、現地説明会を開催した。成果の内容については、第Ⅰ部－十六面・薬王寺遺跡 第31次調査（P.16）を参照されたい。見学者数は413名で、田原本町内が約４割、県内約５割、県外約１割であった。県外では、大阪府（33）や京都府（９）が多いが、神奈川県・愛知県・岡山県・兵庫県・三重県から１～２名の見学者が訪れた。



現地説明会　説明資料

現地説明会　説明風景

現地説明会　説明風景

（２）史跡の公有化

唐古・鍵遺跡は、平成11年１月27日に唐古池を中心とする範囲98,957.73㎡（159筆）について、国の史跡指定を受け、その後、同意の得られなかった４筆及び史跡地に隣接する大型建物跡を検出した第74次調査地及び隣接地６筆を３回にわたって追加指定を受けた。この結果、指定地の面積は102,614.5㎡となった。

これら指定地のうち、国道24号東側については、公園整備を進めるため、平成11年度から公有化に着手し、平成22年度までに70,019.05㎡の買収をおこなった。この結果、指定地の未買収地は唐古池や倉橋溜池用水路を除くと、民有地は３筆となった。平成25年度には史跡地の南西隅の土地１筆685.70㎡の公有化を図り、最終的に公有化の面積は70,704.75㎡となった。

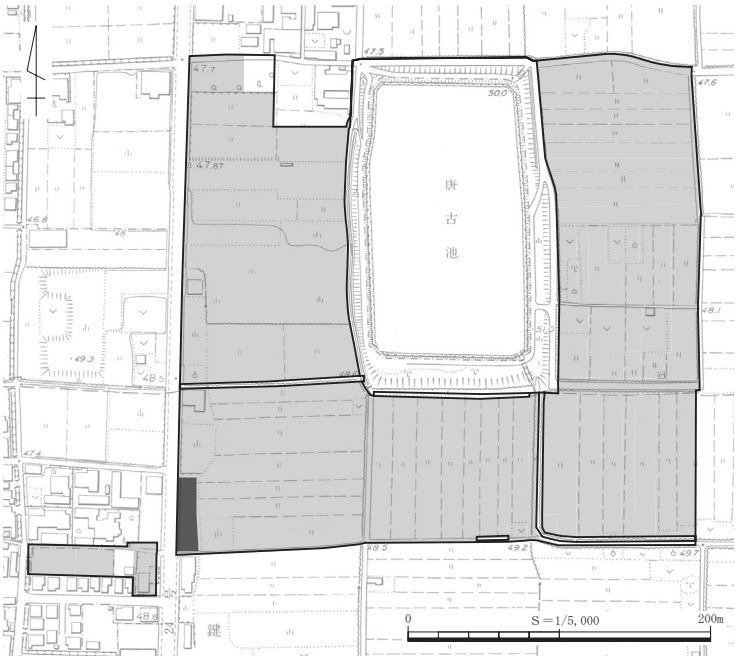
【史跡の指定面積】

平成10年度 指定	平成14年度 追加指定	平成20年度 追加指定	平成22年度 追加指定	合　　計※
98,957.73㎡	1,857.93㎡	442.18㎡	432.52㎡	102,614.5㎡

※　合計面積は、一部実測により誤差が生じている。

【史跡の公有化面積】

平成11～22年度	唐古　50番2　ほか計81筆 鍵　225番1　ほか計51筆	70,019.05㎡
平成25年度	唐古　302番1　計１筆	685.70㎡
合　　計	計133筆	70,704.75㎡



国史跡指定区域　平成 11 ～ 22 年度買収　平成 25 年度買収

唐古・鍵遺跡の指定地状況

３．講座

成人向けの講座として、講演会を３回開催した。また、小中学生向けの体験講座を夏に開催した。

講演会では各講師を招き、唐古・鍵遺跡をテーマに講演をおこなった。チャレンジ子ども弥生探検隊では、ガラスコップに弥生時代の絵を彫るグラスアート作りを実施した。

【講演会】

実 施 日	内　容	講　師	受講者数
２月１日（土）	「唐古・鍵遺跡と巨大前方後円墳 ―大和弥生社会の伝統を継いだ古墳時代の景観設計―」	東海大学 北條　芳隆 氏	87名
２月22日（土）	「弥生集落における漁労と魚利用」	奈良文化財研究所 丸山　真史 氏	57名
３月23日（日）	「日本出土の卜骨―唐古・鍵遺跡を中心として―」	大阪府教育委員会 宮崎　泰史 氏	53名
３日間	３講演		197名

【チャレンジ子ども弥生探検隊】

実 施 日	内　容		会　場	参加者数
７月24日（水）	体験講座	グラスアート作り	研修室	29名

北條　芳隆 氏　講演

丸山　真史 氏　講演

宮崎　泰史 氏　講演

グラスアート作り

４．学校教育等への支援

（１）小学校出前授業・教材貸出

町内小学校から依頼を受け、総合的学習の時間及び社会科等の授業として、以下内容の出前授業をおこなった。これらの児童の作品や学習成果は、２月に開催した「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」にて公開し、216名が観覧した。

【出前授業】

実 施 日	学校・学年	児 童 数	内　　容
４月23日（火）	北小学校　６年	２クラス（ 44名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
５月24日（金）			火熾し・赤米炊飯・脱穀
10月４日（金）			土器づくり
11月22日（金）			土器の野焼き
７月４日（木）	東小学校　６年	１クラス（ 20名）	ミュージアム見学・勾玉づくり
10月２日（水）			土器づくり
11月７日（木）			土器の野焼き
12月26日（火）			火熾し・赤米炊飯
５月10日（金）	南小学校　６年	２クラス（ 67名）	火熾し・赤米炊飯
５月22日（水）			勾玉づくり
６月28日（金）	平野小学校　６年	２クラス（ 57名）	土器づくり
10月11日（金）			土器の野焼き
10月25日（金）			火熾し・赤米炊飯
４月12日（金）	田原本小学校　６年	５クラス（130名）	ミュージアム見学
５月30日（木）			火熾し・赤米炊飯
６月７日（金）			勾玉づくり
６月13日（木）・21日（金）			土器づくり
18日間	12クラス（延べ1,507名）		メニュー延べ25

小学校出前授業（北小学校）

小学校出前授業（田原本小学校）

（２）中学校職場体験学習

中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れ、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムで体験学習を実施した。

【体験学習】

期　間	学 校 名	内　容	人　数
11月５・６・７日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理・土器拓本・ミュージアム受付	５名
11月12・13・14日	北中学校		３名
６日間	２学校	延べ10メニュー	延べ24名

（３）大学の学外授業

奈良大学の通信教育の課外授業として、４回受け入れ、下記内容の授業をおこなった。

【学外授業】

実 施 日	内　　容	人　数
８月３日（土）	奈良大学　通信教育課程「文化財学購読Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	87名
８月31日（土）		51名
２月15日（土）		21名
３月１日（土）		37名
４日間		計196名

中学校職場体験学習（北中学校）

奈良大学通信教育

（４）講師の派遣

前記以外に、教育委員会等の事業として下記のとおり職員を派遣した。

【講師の派遣】

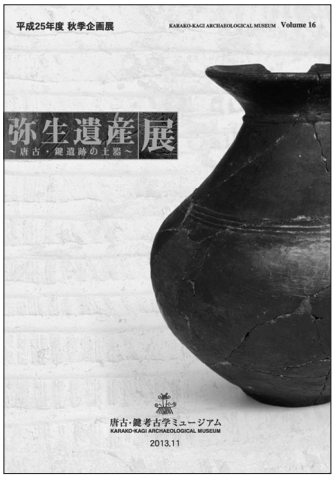
実 施 日	講座名等	演　題	講　師
６月24日（月）	同志社大学 文化情報学部「歴史文化情報論」	歴史文化情報入門	藤田
７月12日（金）	田原本町教育委員会事務局生涯教育課 郷土の歴史教室	国中の考古学	藤田
11月22日（金）	観光ボランティアガイド養成講座	弥生の里「田原本」 （唐古・鍵遺跡を中心に）	藤田
11月24日（日）	田原本町教育委員会事務局生涯教育課 弥生の里文化講座「唐古・鍵ムラとその仲間たち」	唐古・鍵ムラとその周辺	清水
12月７日（土）	大阪府立弥生文化博物館 平成25年度秋季特別展 「吉備と邪馬台国―霊威の継承―」考古学セミナー	ヤマトの国邑	藤田

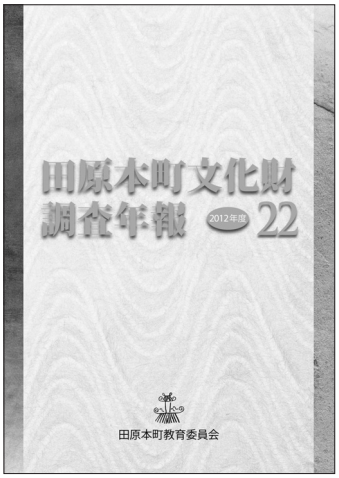
５．刊行物一覧

本年度は、下記５点の書物を印刷・増刷した。

【刊行物名】

書　籍　名	発行日	部　数	内　容
唐古・鍵考古学ミュージアム 春季企画展図録 『たわらもと2013発掘速報展―奈良盆地の開拓史―』	2013年４月	2,500部	平成24年度の発掘調査成果から、十六面・薬王寺遺跡とその周辺における古墳時代の集落変遷、土地利用などについて展示
唐古・鍵考古学ミュージアム 秋季企画展図録 『弥生遺産～唐古・鍵遺跡の土器～』	2013年11月	2,500部	弥生土器の全容と弥生時代、唐古・鍵遺跡との関係についての展示
『田原本町文化財調査年報22　2012年度』	2014年３月	750部	平成24年度の文化財事業の報告
田原本の遺跡６『弥生の王都　唐古・鍵』	2013年８月	2,000部	平成19年度秋季企画展図録の、文章・写真などを再構成した唐古・鍵遺跡の解説パンフレット
唐古・鍵考古学ミュージアム 平成18年度 秋季企画展図録『弥生時代の青銅器鋳造』	2014年３月	2,000部	第２刷
十六面・薬王寺遺跡 第31次調査 現地説明会資料	2013年９月	1,000部	十六面・薬王寺遺跡 第31次調査の現地説明会資料





６．資料の活用

（１）資料の貸出

平成25年度は、８機関に延べ11遺跡246点の遺物等を貸出した。貸出内容は、唐古・鍵遺跡の出土品が大半である。

【資料貸出の一覧】

貸出先／展覧会名／期間	遺　跡　名	資　料　名	点数
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館／『５世紀のヤマト～まほろばの世界～』 平成25年４月20日～６月16日	秦楽寺遺跡	滑石製臼玉未成品23・滑石製管玉4・滑石製管玉未成品6・滑石製勾玉2・滑石製勾玉未成品5・碧玉素材1・グリーンタフ剝片1・グリーンタフ素材3・琥珀製丸玉未成品4・ガラス製丸玉4・ガラス製極小玉2・玉砥石8・砥石4	67点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館／『大和を掘る31－2012年度発掘調査速報展－』 平成25年７月13日～９月１日	十六面・薬王寺遺跡	土師器13・須恵器4・朝鮮半島の壺2・送風管1・滑石製臼玉2・滑石製管玉未成品2・滑石素材2・砥石2	37点
	多遺跡	土師器4・須恵器5	
和歌山市立博物館／『海人の世界－発掘された海辺のくらし－』 平成25年７月20日～９月１日	清水風遺跡	絵画土器６・絵画土器（複製）１	７点
鈴鹿市考古博物館／『小さきものたち－にんぎょうのれきし－』 平成25年７月13日～９月１日	唐古・鍵遺跡	人形土製品1・鶏形土製品1	32点
	寺内町遺跡	泥面子30	
柏原市立歴史資料館／『難波より京に至る大道を置く』 平成25年７月13日～９月８日	保津・宮古遺跡	土師器4・須恵器7・土馬1	12点
下関市立考古博物館／『住まい－弥生時代から古墳時代の建物－』 平成25年９月28日～11月24日	唐古・鍵遺跡	絵画土器9	９点
徳島市立考古資料館／『装身具の世界～玉文化に魅せられて～』 平成25年10月８日～12月１日	唐古・鍵遺跡	碧玉製大型管玉未成品1・碧玉製勾玉1・碧玉製管玉4・臼玉(石材不明)2・ヒスイ製勾玉3・ガラス製丸玉2・ガラス製玉(再加工品)4・褐鉄鉱容器1	18点
大阪府立弥生文化博物館／『吉備と邪馬台国　－霊威の継承－』 平成25年10月22日～12月23日	唐古・鍵遺跡	文様土器5	５点
尼崎市立田能資料館／『縄文・弥生時代の装い』 平成25年11月１日～12月15日	唐古・鍵遺跡	土製勾玉1・土玉22・銅釧2・垂飾品(テン牙)1・結晶片岩製垂飾品1・円形垂飾品1・リング状骨製品1・碧玉製管玉7・泥岩製管玉4・水晶製丸玉4・鉄石英製管玉1・ヒスイ製勾玉3・ヒスイ製丸玉1・ガラス製丸玉6・ガラス製玉(再加工品)3・ガラス製丸玉(半裁)1	59点
８機関／延べ会期期間日数490日	延べ11遺跡		246点

【種別による貸出点数】

土器	埴輪	土製品 焼土	石器	木器	金属器	骨角器	ガラス	骨・貝	種・穀物	レプリカ 模型	総点数
59点	０点	57点	103点	０点	２点	２点	22点	０点	０点	１点	246点

【資料の継続貸出】

貸 出 先／展 示 名／期 間	遺 跡 名	資 料 名	点 数
香芝市二上山博物館　常設展示 【貸出期間】平成25年４月１日～平成26年３月31日	唐古・鍵遺跡	弥生土器・壷・高坏・槍先形石器	５点
大阪府立弥生文化博物館　常設展示 【貸出期間】平成25年４月１日～平成26年３月31日	唐古・鍵遺跡	土弾	２点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　常設展示 【貸出期間】平成25年４月１日～平成26年３月31日	唐古・鍵遺跡	石製銅鐸鋳型・土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠・土製不明鋳型外枠・高坏形土製品・送風管	13点
３件	延べ３遺跡		20点

（２）写真掲載・撮影

写真の貸出及び掲載（転載含む）は45件190点であった。写真掲載の内容は、唐古・鍵遺跡の出土遺物の利用度が高い。

【写真掲載・撮影】

貸　出　先	掲　載　書　籍　等	名称（遺跡名）	資　料　名	点数
㈲アート・エフ	『2014センター過去問題集日本史Ｂ』	笹鉾山２号墳	馬形埴輪	１点 （転載）
㈱アーテファクトリー	『週刊歴史のミステリー91号改訂版』	唐古・鍵遺跡	遺跡遠景・唐古・鍵ムライラスト・青銅器鋳造風景イラスト・青銅器鋳造関連遺物集合・絵画土器・復元楼閣・楼閣が描かれた土器片・環濠・木製鋤	９点 （転載）
朝日新聞社	朝日新聞大阪本社版夕刊『おとなの遠足』	唐古・鍵考古学ミュージアム	展示風景	２点
尼崎市教育委員会	特別展「縄文・弥生の装い」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器・牙製垂飾品(2)・リング状骨製品・管玉未成品・翡翠製勾玉・翡翠製丸玉・翡翠製小玉・ガラス製勾玉・ガラス小玉・水晶製小玉・碧玉製管玉・碧玉製勾玉・簪等装飾品集合・玉類集合(2)・褐鉄鉱容器と翡翠製勾玉	17点
伊藤通子	『アマテラスの首飾り　翡翠のメタモルフォーゼ』	唐古・鍵遺跡	褐鉄鉱容器と翡翠製勾玉	１点
㈱エヌ・ティー・エス	『鳥の骨探(NetLibrary版)』	唐古・鍵遺跡	カモ骨	１点 （転載）
大阪府立弥生文化博物館	平成25年度秋季特別展「吉備と邪馬台国―霊威の継承―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	弧帯文土器(2)	２点
柏原市立歴史資料館	平成25年度夏季企画展「難波より京に至る大道を置く」関連印刷物	保津・宮古遺跡	土器集合・土馬・調査区全景	３点
唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会	『会報　からこかぎ』	唐古・鍵遺跡	土製銅鐸鋳型外枠集合	１点
	『会報　からこかぎ』	唐古・鍵遺跡	分銅形土製品(2)	２点
学校法人　河合塾	『2013年度第２回センタートレーニングテスト〈日本史〉（高卒生対象）』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片・復元楼閣	２点 （転載）

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちたび博物館）	「邪馬台国が見える！　日本古代の原風景」展関連印刷物	唐古・鍵遺跡	航空写真・唐古・鍵ムラ変遷図(4)	5点
㈲キックオフプラス	『日本の歴史の道具事典』	唐古・鍵遺跡	石庖丁の制作工程	1点（転載）
郷土資料集「わたしたちの田原本町」編集委員長	『わたしたちの田原本町』	多神社	太安万侶坐像	1点
		補巌寺	寶陀山補巌禅寺納帳	1点
近畿日本鉄道㈱近畿文化会	『近畿文化』768号（大和国中に「弥生の都」を訪ねる）	唐古・鍵遺跡	壷の形式編年・水差形土器・楼閣が描かれた土器片	3点
㈲グループ・コロンブス	『絵でわかる社会科事典⑥衣住食の歴史』	唐古・鍵考古学ミュージアム	機織り人物模型	1点
㈱敬文舎	『私の最新講義』第6回配本「古墳からみた倭国の形成と展開」	唐古・鍵遺跡	土器片	1点
佐藤明男	『古代東北の蝦夷』	唐古・鍵遺跡	褐鉄鉱容器と翡翠製勾玉	1点
㈱ザメディアジョン	『杓子の歴史（仮）』	唐古・鍵遺跡	木製品水浸け土坑・木製品の制作過程	2点
静岡市教育委員会	特別史跡登呂遺跡発見70周年記念特別展「弥生の戦い～その時登呂ムラは！？～」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵ムラの変遷(4)・大環濠・環濠群	6点
下関市立考古博物館	平成25年度特別展「くらしとまつりの家―弥生時代から古墳時代の建物―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	絵画土器(9)	9点
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	平成25年度速報展「大和を掘る31」関連印刷物	十六面・薬王寺遺跡	住居址・調査区全景・遺構平面図	3点
		多遺跡	調査区全景	1点
	春季特別展「弥生時代の墓―死者の世界―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	第91次調査地全景・木棺墓(3)・土器棺墓・方形周溝墓木製品出土状況	6点
		矢部南遺跡	方形周溝墓完掘状況(2)・方形周溝墓遺物出土状況(4)・土器集合	7点
		十六面・薬王寺遺跡	方形周溝墓	1点
		阪手東遺跡	第2次調査地全景・供献土器出土状況	2点
		多遺跡	木棺墓？完掘状況	1点
		阪手東遺跡ほか	供献土器集合	1点
㈱小学館クリエイティブ	『一冊でわかる　イラストでわかる図解古代史』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片・復元楼閣	2点（転載）
㈱新泉社	『海でつながる倭と中国』	唐古・鍵遺跡	青銅器鋳造関連遺物集合	1点
		笹鉾山2号墳	馬形埴輪・馬曳人物埴輪	2点
		羽子田1号墳	盾持人埴輪	1点
鈴鹿市	平成25年度企画展「小さきものたち―にんぎょうのれきし―」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	鶏頭形土製品・人形土製品	2点
		寺内町遺跡	泥面子(30)	30点

㈲スタジオ・ジップ	『入門　邪馬台国と古代日本』	保津・宮古遺跡	家形埴輪	１点
		唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片・絵画土器(2)	３点
㈱同成社	ものが語る歴史シリーズ№30『イヌの考古学』	唐古・鍵遺跡	イヌの噛み痕が残る土器	１点
徳島市教育委員会 ㈶徳島市シルバー人材センター	徳島市立考古資料館開館15周年記念特別企画展「装身具の世界～玉文化に魅せられて～」関連印刷物	唐古・鍵遺跡	臼玉・碧玉製勾玉・泥岩製管玉・碧玉製管玉(3)・碧玉製大型管玉未成品・翡翠製勾玉・ガラス製丸玉(2)・ガラス製玉(4)・褐鉄鉱容器	15点
新潟県教育委員会	平成25年度越後国域確定1300年記念事業記録集	唐古・鍵遺跡	骨角器集合・斧柄集合・木製品未成品集合・鍬集合・編み具集合・サヌカイト原石集合・石製品集合・送風管集合・土製銅鐸鋳型外枠集合・絵画土器集合・絵画土器	11点
日本文教出版㈱	『中学社会歴史的分野』および関連出版物	唐古・鍵遺跡	弥生土器	１点 （転載）
㈱浜島書店	『新詳日本史』（高校生対象日本史資料集）	唐古・鍵遺跡	平鍬	１点 （転載）
㈱フォト・オリジナル	『列伝！　神様になった日本人（仮）』	秦楽寺	木造秦河勝坐像	１点
㈱フクト	『夏の生活　社会　歴史Ⅰ』	唐古・鍵遺跡	弥生土器	１点 （転載）
㈶文化財建造物保存技術協会	『文建協通信』第113号	唐古・鍵遺跡	大型建物平面図	１点
㈱平凡社	『太陽の地図帖23　古墳～古墳を旅する』	笹鉾山２号墳	馬形埴輪・馬曳人物埴輪	２点
編集工房玻瑠	『山と街の芸能史―日本と東南アジアの神事・芸能・演劇―』［研究編］・［写真資料編］	唐古・鍵遺跡	絵画土器	１点 （転載）
㈱学び舎	文部科学省検定教科書『ともに学ぶ人間の歴史』（中学社会歴史的分野）	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	１点
柳田康雄	『日本・朝鮮半島の青銅武器研究』	唐古・鍵遺跡	銅矛転用鑿	３点
㈱山川出版社	『ビジュアル版日本史図録（仮）』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片・平鍬・復元楼閣	３点 （転載２）
	『2013年度歴史能力検定３級日本史（準会場用）試験問題』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	１点
㈱ユニフォトプレスインターナショナル	『最新日本史図説（仮）』	唐古・鍵遺跡	扁平片刃石斧	１点
㈱読売奈良ライフ	月刊情報誌『yomiっこ４月号』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	１点
㈱リミックス	『はれ予報』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた土器片	１点
		補巌寺	寶陀山補巌禅寺納帳集合(2)	２点
和歌山市立博物館	平成25年度夏季特別展「海人の世界―発掘された海辺のくらし―」関連印刷物	清水風遺跡	絵画土器	６点
45件		延べ57遺跡等		190点

（3）資料調査

本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査があった。

【資料調査】

調　査　日	調　査　者	資　料　名
5月14日（火）	香川県埋蔵文化財センター　森下友子	唐古・鍵遺跡　建物絵画土器
6月4日（火） ～ 3月20日（木）	奈良文化財研究所　丸山真史	唐古・鍵遺跡　動物遺存体
6月14日（金）	岡崎晋明	唐古・鍵遺跡　絵画土器 清水風遺跡　絵画土器
7月10日（水）	大阪大学大学院生　橘泉	羽子田1号墳　盾持人埴輪
12月11日（水）	東海大学　北條芳隆	唐古・鍵遺跡　石釧
2月9日（日）	愛知県埋蔵文化財センター　永井宏幸	唐古・鍵遺跡　円窓付土器

7．ボランティア組織

（1）ボランティア組織の概要

唐古・鍵遺跡を総合的に支援する任意ボランティア組織として、平成16年4月10日、「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍵支援隊）が設立された。今年度の会員は、57名である。

主な活動は、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合的学習の支援や子ども会等を対象とした考古学体験、ミュージアムへの勧誘活動、文化財保存課〈ミュージアム〉主催事業への支援等がある。活動については、4月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会を基本的に月2回おこない、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備など、延べ30日421人が参加した。唐古・鍵遺跡においては団体向けに現地ガイドを実施し、8日間で延べ189人に対応した。

唐古・鍵遺跡現地においては、清掃活動にも取り組み、今年度は2回延べ23人が参加した。

また、歴史・考古学の知識を活動に活かすため「弥生勉強会」を４回実施し、田原本町文化財保存課の藤田を講師に迎え、座学のほか、中曽根遺跡、竹内遺跡、葛城市の弥生遺跡などの現地見学をおこなった。

【唐古・鍵支援隊の支援活動】

活　動　日	内　容	主　催	支援内容	活動人数
４月20日・11月16日・12月８日 計３日間	春季企画展 報告会・講演会 秋季企画展 講演会・土器観察会	文化財保存課	受付	７人
２月１日・２月22日・３月23日 計３日間	唐古・鍵考古学ミュージアム 講演会			６人
７月24日	チャレンジ子ども弥生探検隊 （弥生絵画のグラスアート作り）		支援	８人
９月14日	十六面・薬王寺遺跡 第31次調査現地説明会		受付 支援	８人
４月12日・４月23日・５月10日・ ５月22日・５月24日・５月30日・ ６月７日・６月13日・６月21日・ ６月28日・７月４日・10月２日・ 10月４日・10月11日・10月29日・ 11月７日・11月22日・11月26日 計18日間	総合的学習（土器づくり・野焼き・火熾し・炊飯・脱穀・勾玉づくり）	北小学校 平野小学校 田原本小学校 東小学校 南小学校	支援	205人
２月５日・２月７日・２月８日・ ２月９日・２月11日・２月12日 計６日間	田原本町内小学校の総合的な学習展示会	文化財保存課 支援隊 町内５小学校	受付 支援	28人
８月30日	勾玉づくり（橿原ナビプラザ）	産業観光課	支援	10人
10月28日	勾玉づくり	南薬王寺子供会	支援	５人
11月２日	文化祭（弥生生活体験：穂摘み・脱穀・火熾し）	生涯教育課	支援	17人
２月27日	ミュージアムガイド・勾玉づくり	近大附属小学校	支援	12人
７月27日・８月17日・９月７日・ ９月21日 計４日間	唐古・鍵遺跡コスモス栽培	総合政策課	支援	88人
延べ40日		18団体		394人

Ⅲ．唐古・鍵考古学ミュージアム

１．常設展示

（１）常設展示資料の追加

常設展示第１室の「交流と戦い」コーナーに土器片１点の展示を加えた。

唐古・鍵遺跡の出土品について、平成12年から断続的に再整理を実施しており、平成25年度は唐古・鍵遺跡第34次調査の土器片約80箱分の再整理をおこなった。今回展示に加えた北部九州の土器片は、この整理中に発見したものである。

土器片は、甕の口縁部にあたる破片で、地元の弥生土器と比較して、口縁部を赤彩する点、外面のハケ調整の工具が異なる点、土器成形において粘土紐ではなく板づくりの可能性がある点に特徴がある。最大の特徴は、口縁部を外側に強く屈曲させ、逆「Ｌ」字形に作ることである。このような特徴は、北部九州の筑前地域にみられる「須玖式」と共通しており、北部九州から唐古・鍵遺跡に運ばれてきた可能性が高いものである。

土器片は、弥生時代中期中頃のものと推定される。唐古・鍵遺跡では、これまで中期後半の吉備地域の搬入土器が出土していたが、それより時期が遡り、吉備を遥かに越えた遠距離地域との広域交流を示すものとなる。今後に問題を提起する重要な土器である。

北部九州の土器片

展示風景

（２）田原本ギャラリー　今回の逸品

田原本町内の遺跡から出土した埋蔵文化財や、古文書等の有形文化財を不定期に入れ替えながら展示公開している。また、解説パネルを併置し、展示品の特徴や意義などを説明している。

平成25年度は、６月までは第２回「渦巻文様のある聖なる壷」を昨年度から引き続き展示し、以降は第３回「「幡」を描いた絵画土器」を展示した。９月からは発掘調査の速報として第４回「古代の玉作り」、11月には秋季企画展「唐古・鍵遺跡の土器」に合わせて第３回「「幡」を描いた絵画土器」を再展示、翌年１月からは平成26年の干支が午であることから第５回「井戸に捧げられた馬」、３月からは第６回「近代の文房具」と題して、計５テーマの展示をおこなった。

第３回で展示した絵画土器（レプリカ）は、船を漕ぐ人物が描かれたものとして有名で、1937年の唐古池の発掘調査時に出土し、原品は京都大学総合博物館に展示されている。

壷の胴部上半には、左方向に船を漕ぐ人物が描かれ、舳先の人物の櫂近くにある３本の放射状の線刻は、竿から垂れ下がった「ひれ」で、幡であったと考えられる。幡は現在でもまつりに使われる道具で、神を迎える招代（おぎしろ）の役目があったと考えられる。この絵画は、その起源が弥生時代まで遡る可能性を示す重要な意匠といえるであろう。

第４回では、十六面・薬王寺遺跡第31次調査にて出土した石製品を展示した。

十六面・薬王寺遺跡では、第30・31調査において玉作りをおこなった集落跡を検出している。古墳時代前期の玉作り集落としては、県内３例目となり、一つの遺跡で玉作りの変遷を追うことのできる貴重な資料である。

第５回では、唐古・鍵遺跡第59次調査にて唐古池東側から出土した馬の骨と、共伴した土器を展示した。馬は飼育や乗馬の技術とともに大陸から渡来し、古墳時代中期に利用が普及した。古墳時代の馬は、労働力としてだけでなく、軍馬や威信財としての役割も担っていた。

骨は大形の井戸の最上層に埋納されたようであり、この井戸から木製の腰掛けや手網、田下駄、木錘、須恵器の壷や甑、土師器の壷や甕、高坏などが出土していることを考えると、これら遺物で構成されるマツリを想定することができる。

第６回では、平野氏陣屋跡第３次調査にて出土した石板・石筆・硯を展示した。これらは、現在の田原本町役場の新築工事に伴う発掘調査時に出土したものである。役場の南側には、慶安元年（1648）に完成する陣屋や家臣団の屋敷跡があり、役場の位置には家臣団の屋敷があったようである。明治18年（1885）には、その跡地に田原本尋常小学校が築かれたことがわかっており、これらの道具は小学校に通う児童の文房具であった。石板はノート、石筆は鉛筆のように使われていたもので、当時の勉学に打ち込む児童らの様子が思い起こされる。

【田原本ギャラリー展示品】

展示名		展示品	展　示　期　間
第１回	龍を描いた絵画土器	弥生土器 広口壷（龍の絵画）	平成23年11月～平成24年６月
第２回	渦巻文様のある聖なる壷	弥生土器 短頸壷（連続渦文）	平成24年６月～平成25年６月
第３回	「幡」を描いた絵画土器	弥生土器 直口壷（船と幡の絵画）	平成25年６月～平成25年９月 平成25年11月～平成26年１月
第４回	古代の玉作り集落	十六面・薬王寺遺跡第31次調査出土 玉作り・祭祀関連石製品	平成25年９月～平成25年11月
第５回	井戸に捧げられた馬	馬骨、土師器、須恵器	平成26年１月～平成26年３月
第６回	近代の文房具	石板、石筆、硯	平成26年３月～

これら展示品の解説パネルは、唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページでPDFファイルとして公開し、バックナンバーも同じページで公開している。

【第３回　「幡」を描いた絵画土器】

器　　種	直口壷（レプリカ）
登録番号	MR-複製-0015
出土遺跡	唐古・鍵遺跡
調査次数	第１次調査
法　　量	復元高 35.7cm
時　　代	弥生時代中期

【第４回　古代の玉作り集落】

遺 物 種	勾玉・管玉・臼玉・玉類未成品・玉素材・鏡形石製模造品
登録番号	MS-祭模-0168ほか
出土遺跡	十六面・薬王寺遺跡
調査次数	第31次調査
時　　代	古墳時代後期

【第５回　井戸に捧げられた馬】

遺 物 種	馬骨・土師器小型丸底壷・須恵器瑳
登録番号	MB-骨類-0022ほか
出土遺跡	唐古・鍵遺跡
調査次数	第59次調査
時　　代	古墳時代中期

【第６回　近代の文房具】

遺 物 種	石板・石筆・硯
登録番号	－
出土遺跡	平野氏陣屋跡
調査次数	第３次調査
時　　代	明治時代

2．企画展・ミニ展示

（1）春季企画展「たわらもと2013発掘速報展―奈良盆地の開拓史―」

内　容：寺川と飛鳥川に挟まれた平野部は、大王の直轄地「倭屯倉」が置かれた場所とされ、王権を支える重要な地域であった。近年の発掘調査で、古墳時代から古代、中世にいたるこの地域の変遷過程が明らかとなりつつある。今回の企画展では、2012年度の発掘調査成果を基に、十六面・薬王寺遺跡とその周辺で展開した古墳時代の集落変遷と水田開発の拡がりを探った。

期　間：4月20日（土）～5月26日（日）

入館者：944名（企画展のみ）

春季企画展チラシ

【展示構成と主要展示品】（展示総数345点）

（Ⅰ）盆地中央部の古墳時代の幕開け（ケース①②）

弥生土器、土師器、木製品（羽子田遺跡）

（Ⅱ）寺川・飛鳥川流域の動向（ケース③④⑬）

土師器、朱精製鉢、円板状木製品（宮古北遺跡、十六面・薬王寺遺跡）

（Ⅲ）保津・宮古遺跡と近隣の遺跡（ケース⑤⑥）

土師器、木製盾（保津・宮古遺跡、常楽寺推定地）

（Ⅳ）古墳時代前期後半の集落（ケース⑦⑧）

土師器、砥石、用途不明鉄製品、玉類製作関連遺物（十六面・薬王寺遺跡、秦楽寺遺跡）

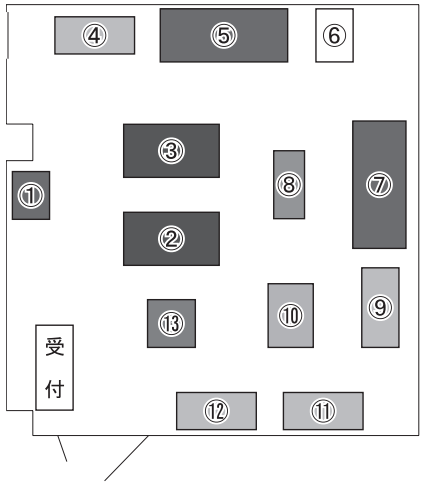
（Ⅴ）渡来系文物の流入（ケース⑨⑩）

土師器、初期須恵器、韓式系土器（多遺跡、唐古・鍵遺跡ほか）

（Ⅵ）飛鳥時代の水田開発と奈良・平安時代の宮古地域（ケース⑫⑬）

土師器、須恵器、瓦（十六面・薬王寺遺跡）

【展示ケースの配置】



展示風景

【田原本町保管遺物】

遺　跡　名		遺　物　名	点　数
唐古・鍵遺跡		韓式系土器（11）	11点
清水風遺跡		韓式系土器（1）	1点
宮古北遺跡	第15次	土師器甕（１）、土師器鉢（１）、円板状木製品（１）	３点
		土師器壷（４）、土師器鉢（１）	５点
保津・宮古遺跡		土師器壷（３）、土師器甕（３）、土師器台付鉢（２）、土師器高坏（１）、韓式系土器（２）、木製盾（１）	12点
常楽寺推定地		土師器壷（４）、土師器甕（２）	６点
十六面・薬王寺遺跡	試掘	土師器壷（４）、土師器甕（４）、土師器高坏（１）	９点
	第30次	土師器壷（６）、土師器長胴壷（１）、土師器甕（11）、土師器高坏（８）、土師器皿（１）、須恵器壷（１）、須恵器甕（１）、須恵器高坏（１）、須恵器甑（１）、韓式系土器（３）、送風管（１）、砥石（２）、滑石剝片（11）、滑石製管玉未成品（７）、滑石製臼玉（18）、滑石製臼玉未成品（20）、グリーンタフ剝片（１）、用途不明鉄製品（１）、馬の歯（１）、平瓦（２）、軒丸瓦（１）	99点
羽子田遺跡	第37次	弥生土器甕（２）、土師器甕（１）	３点
		土師器壷（５）、土師器甕（２）、一木鋤柄（１）、鍬（泥除け）（２）、横槌（1）、堅杵（1）、膝柄斧柄（2）	14点
秦楽寺遺跡		琥珀剝片（30）、琥珀製丸玉（９）、琥珀製丸玉未成品（１）、滑石製臼玉（71）、滑石剝片（１）、滑石製臼玉未成品（35）、滑石製管玉未成品（5）、滑石製円板状石製品（３）、滑石製勾玉（４）、碧玉製管玉未成品（５）、韓式系土器（８）	172点
多遺跡	第25次	土師器高坏（５）、土師器甑（１）、初期須恵器鉢（３）、韓式系土器（１）	10点
９遺跡		63製品	345点

※調査次数があるものは平成 25 年度の発掘調査

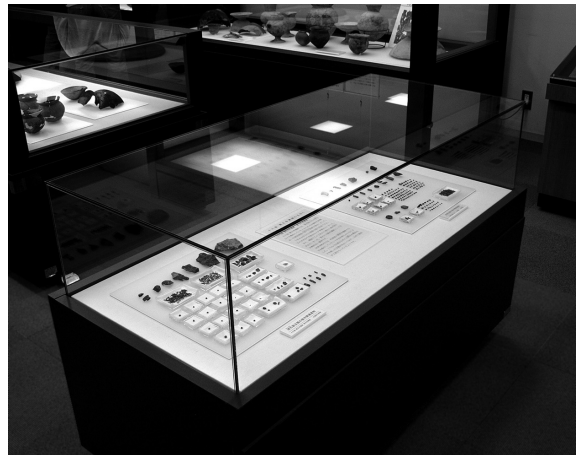
【関連イベント】

イベント名	内　　容	日時・場所	参加人数
報告会	清水　琢哉（田原本町教育委員会事務局文化財保存課 調査係長） 「平成24年度の発掘調査成果について」	４月20日（土） 午後２時～午後３時30分 視聴覚室	36人

展示風景

展示ケース③

展示ケース⑤



展示ケース⑧

展示ケース⑬

報告会（清水琢哉）

（２）秋季企画展「弥生遺産～唐古・鍵遺跡の土器～」

内　容：弥生時代を通じて継続する拠点集落である唐古・鍵遺跡からは、膨大な量の遺物が出土するが、その中で最も多いのが弥生土器である。日常的・普遍的に用いられた弥生土器は、弥生時代の生活に密着しており、当時の生活文化を探ることができる資料となる。今回の企画展では、弥生土器の全容と弥生時代、また唐古・鍵遺跡を相互的に紹介・展示した。

期　間：11月16日（土）～12月23日（月）

入館者：983名（企画展のみ）

秋季企画展示チラシ

【展示構成と主要展示品】（展示総数328点）

（Ⅰ）弥生研究の始まりと土器研究の確立（ケース①）

『大和唐古石器時代遺物図集』、『大和唐古弥生式遺跡の研究』、絵画土器

（Ⅱ）唐古・鍵の弥生土器が示す土器編年（ケース②～④）

大和第Ⅰ～Ⅵ様式・庄内式・布留式の土器

（Ⅲ）土器づくりと土器の転用・廃棄（ケース⑦⑧⑭⑮⑰）

粘土塊、木葉・布圧痕土器、小動物爪痕土器、補修土器、転用土器、土器片紡錘車、被熱土器ほか

（Ⅳ）弥生土器の美（ケース⑤⑥⑯⑰）

彩文土器、櫛描き文土器、特殊タタキ土器、三角刺突文土器、鋸歯文土器、絵画土器、記号土器ほか

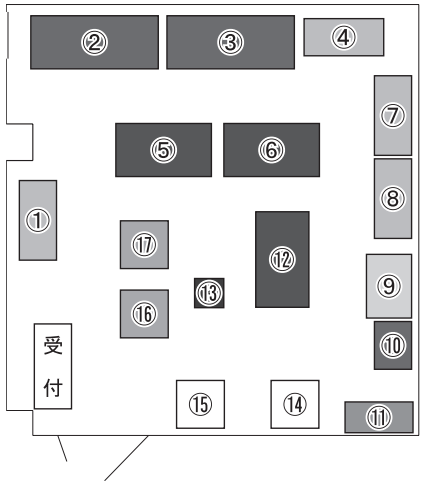
（Ⅴ）特殊な土器（ケース⑫⑬）

底部多角形土器、多孔鉢、多孔高坏、台形土器、広片口鉢、注口土器、鳥？形土器、籠目土器、穿孔・有孔土器、ミニチュア土器

（Ⅵ）土器は動く（ケース⑨～⑪）

北部九州・吉備・播磨・生駒西麓・紀伊・近江・伊勢湾岸の土器

【展示ケースの配置】



展示風景

【借用（一時変還）遺物】

遺　　跡　　名（遺物名・点数）	点　数	所　　蔵　　者
唐古・鍵遺跡（水差形土器2、異形高坏1、結合形土器1）（２点のみ展示）	４点	奈良県立橿原考古学研究所
唐古・鍵遺跡（彩文土器2、絵画土器1）	３点	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
１遺跡等（５製品）	７点	２機関等

【田原本町保管遺物】

遺 跡 名	遺 物 名	点 数
唐古・鍵遺跡	弥生土器（絵画・記号・補修・転用・被熱・彩文・異形・搬入土器等）	323点

【関連イベント】

		開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計
			一　般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
17年度	春季	32	733　(211)	43(0)	222　(0)	15	77	298	1,388　(211)
	秋季	32	349　(25)	31(0)	104　(0)	5	42	449	980　(25)
18年度	春季	32	340　(52)	65(41)	205 (32)	10	30	140	790　(125)
	秋季	32	0　(0)	0(0)	217　(0)	0	0	1,628	1,845　(0)
19年度	春季	32	332　(54)	21(0)	331(223)	9	15	140	848　(277)
	秋季	32	0　(0)	0(0)	169　(0)	0	47	2,373	2,589　(0)

11月16日の講演会では、弥生土器の編年や製作について、２講師を招き講演していただいた。

松本洋明氏からは、「土器を使う」「土器をつくる」という視点から、弥生時代の生活や技術の伝播を探る内容でご講演いただいた。「土器を使う」では、大和第Ⅱ様式の広口長頸壷をとりあげ、その形態の変遷から用途の変化を、民俗学的事例をあげながら説かれた。また「土器をつくる」では、大和第Ⅰ様式～第Ⅱ様式の甕、特に大和形甕に注目された。その形態の差異から、土器の調整手法や地域差に言及し、大和第Ⅱ様式の甕について、近畿内陸の土器製作技法が大和に普及していったことを解説された。

深澤芳樹氏からは、唐古・鍵遺跡と弥生時代研究、また弥生土器の製作技法についてご講演いただいた。黒色土器の製法では、籾殻を利用して煤を付着させる方法を解説された。また、櫛描き文を描く道具については、イグサを用いたのではないかという考えを示され、実際に実験された様子を説明された。

12月８日の講演会と土器観察会では、田原本町教育委員会事務局文化財保存課の課長である藤田より、研究の際に弥生土器を観察するポイントや、土器研究の歴史について解説があった。また同時に、聴講者に弥生土器に実際に触れてもらい、時期ごとの形状の違いなどを観察してもらうなど、講演内容を実践する形で観察会をおこなった。

【弥生土器と記念撮影】

唐古・鍵遺跡出土の大形の複合口縁壷を展示し、並んで記念写真を撮影できるスペースを設けた。この壷は集水施設として転用されていたため底部を欠いているが、ほぼ全体が残っており、高さ約90.5㎝、胴部径約66㎝の大きさがある。唐古・鍵遺跡から出土した弥生土器で、復元できたものとしては最大である。

記念撮影は、開館中は随時受け付けており、会期中では82名の利用があった。

【年度別入館者推移】

年　度	開館日数	有料入館者		
		一　般	高・大学生	1
16年度	103	1,744　(209)	131　(0)	1,
17年度	306	4,988 (1,423)	401　(20)	3,
18年度	306	2,962　(785)	911　(650)	3,
19年度	306	3,760　(932)	483　(174)	2,

展示ケース③

講演会（松本洋明 氏）

講演会（深澤芳樹 氏）

講演会と土器観察会（藤田三郎）

（３）特別展示「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」

内　容：田原本町内の各小学校において、総合的な学習の時間を利用した土器づくりや赤米炊飯をはじめとする体験学習を実施している。今年度の学習成果である土器や勾玉をはじめ、児童らの感想文等を展示陳列した。

期　間：２月７日（金）～12日（水）

観覧者：216名（特別展示のみ）

【展示構成と内容】（展示期間：５日間／展示点数553点）

（Ⅰ）北小学校

土器、勾玉、新聞、写真

（Ⅱ）平野小学校

土器、新聞

（Ⅲ）田原本小学校

土器、勾玉、新聞

（Ⅳ）南小学校

勾玉、新聞

（Ⅴ）東小学校

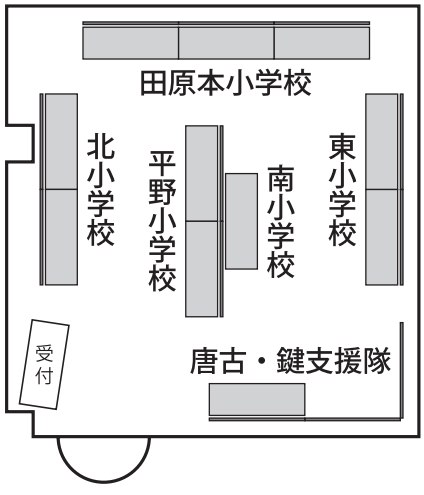
土器、勾玉、新聞

（Ⅵ）唐古・鍵支援隊

木製匙、木製皿、アンギン編み機模型、アンギン、布、カラムシ、土器（野焼き）、土器（電気釜）、火鑽杵（舞錐）、火鑽臼、炊飯用甕、石庖丁、サヌカイト原石、矢、木製臼、竪杵、感想文集

特別展示チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

３．入館者・ホームページ

（１）入館者数

平成25年度の入館者数は、9,316人である。前年度に比べると約５％増加した。

本年度の総入館者数に対する団体の割合は、約13.8％で減少した。

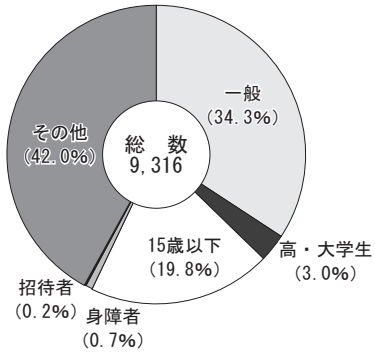
無料入館日の入館者は、５月５日（土・祝）のこどもの日（親子・保護者を対象）21名、夏季節電対策無料入館期間（８月１日～31日）1,365名、関西文化の日の11月16日（土）385名・17日（日）273名の計2,044名である。

【月別入館者数】

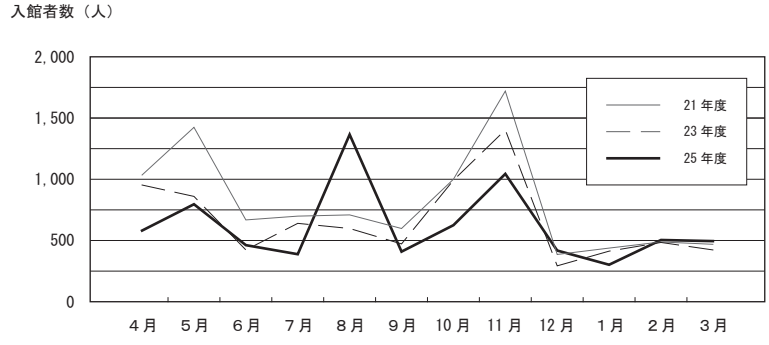
月	開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計
		一　般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
４月	25	154　(0)	7　(0)	369(218)	3	0	355	888　(218)
５月	27	511(228)	28　(0)	140　(0)	14	0	740	1,433　(228)
６月	26	248　(70)	57(29)	57　(0)	4	0	96	462　(99)
７月	26	101　(0)	11　(0)	159　(0)	3	0	114	388　(0)
８月	27	0　(0)	0　(0)	319　(0)	0	0	1,046	1,365　(0)
９月	25	216　(53)	28　(0)	55　(0)	0	5	105	409　(53)
10月	27	281(118)	8　(0)	171(112)	2	0	163	625　(230)
11月	26	669(176)	24　(0)	147　(18)	10	6	817	1,673　(194)
12月	23	483　(0)	38　(0)	66　(0)	15	5	165	772　(0)
１月	23	127　(24)	10　(0)	53　(0)	5	0	107	302　(24)
２月	24	156　(0)	25(21)	210　(99)	6	0	107	504　(120)
３月	26	246　(70)	47(37)	95　(14)	7	0	100	495　(121)
合　計	305	3,192(739)	283(87)	1,841(461)	69	16	3,915	9,316(1,287)

※１　（　）は団体入館者の人数（内数）。
※２　その他は、研修での利用（減免）・ボランティア研修等の来館者。
※３　８月１日～８月 31 日は夏季節電対策無料期間となるため、「15 歳以下」以外は「その他」に含む。

【入館者の内訳】



【入館者の月別推移】



【企画展　入館者数】

		開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計
			一　般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
17年度	春季	32	733　(211)	43(0)	222　(0)	15	77	298	1,388　(211)
	秋季	32	349　(25)	31(0)	104　(0)	5	42	449	980　(25)
18年度	春季	32	340　(52)	65(41)	205 (32)	10	30	140	790　(125)
	秋季	32	0　(0)	0(0)	217　(0)	0	0	1,628	1,845　(0)
19年度	春季	32	332　(54)	21(0)	331(223)	9	15	140	848　(277)
	秋季	32	0　(0)	0(0)	169　(0)	0	47	2,373	2,589　(0)
20年度	春季	32	303　(28)	15(0)	163 (63)	7	38	178	704　(91)
	秋季	32	231　(0)	44(0)	93　(0)	5	33	265	671　(0)
21年度	春季	32	442　(186)	20(0)	142 (46)	9	46	132	791　(232)
	秋季	32	388　(147)	16(0)	105　(0)	21	21	430	981　(147)
22年度	秋季	44	485　(86)	164(92)	95　(0)	11	10	542	1,307　(178)
23年度	春季	32	478　(50)	12(0)	150 (33)	16	15	118	789　(83)
	秋季	32	557　(276)	7(0)	165 (45)	8	10	391	1,138　(321)
24年度	春季	32	420　(74)	16(0)	93　(0)	8	10	102	609　(74)
25年度	春季	32	0　(0)	0(0)	140 (44)	0	0	804	944　(44)
	秋季	33	463　(39)	26(0)	50　(9)	13	7	424	983　(48)
合　計		525	5,521(1,228)	480(133)	2,444(495)	137	401	8,414	17,357(1,856)

※1　(　) は団体入館者の数（内数）、18 年度・19 年度の秋季企画展、及び 25 年度の春季企画展は無料の為、団体人数はカウントしていない。

※2　本表「無料入館者　その他」は、「親子無料入館日」・「関西文化の日」の無料入館者を含む。また、18 年度・19 年度の秋季企画展は、文化庁の「埋蔵文化財保存活用整備事業」の為、無料とし、本項に含めた。

【年度別入館者推移】

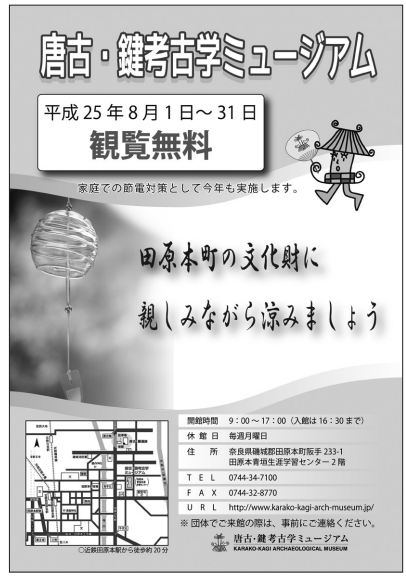
年　度	開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計
		一　般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
16年度	103	1,744　(209)	131　(0)	1,345　(65)	42	251	1,083	4,596　(274)
17年度	306	4,988 (1,423)	401　(20)	3,060　(229)	174	357	3,040	12,020 (1,672)
18年度	306	2,962　(785)	911　(650)	3,138　(333)	105	233	3,879	11,228 (1,768)
19年度	306	3,760　(932)	483　(174)	2,933　(531)	102	186	4,963	12,427 (1,637)
20年度	307	3,473 (1,148)	567　(253)	2,790　(359)	92	216	2,079	9,217 (1,760)
21年度	307	4,204 (1,599)	585　(311)	2,123　(258)	111	264	2,347	9,634 (2,168)
22年度	306	3,621 (1,151)	744　(430)	1,584　(213)	74	71	2,681	8,775 (1,794)
23年度	307	3,999 (1,245)	400　(236)	1,873　(300)	87	53	2,487	8,899 (1,781)
24年度	306	3,239 (1,014)	174　(61)	1,933　(543)	64	23	3,416	8,849 (1,618)
25年度	305	3,192　(739)	283　(87)	1,841　(461)	69	16	3,915	9,316 (1,287)
累　計	2,859	35,182(10,245)	4,679(2,222)	22,620(3,292)	920	1,670	29,890	94,961(15,759)

※　16 年度は、11 月 24 日から 3 月 31 日まで延べ 103 日間の入館者数。

※　(　) は団体入館者の数（内数）

（２）節電対策夏季無料入館

夏季の節電対策として、家庭での冷房を控え唐古・鍵考古学ミュージアムで文化財に親しみながら涼を得る事業を実施し、８月１日（木）～８月31日（土）の期間を入館無料とした。この期間の入館者数は1,365名であり、前年度の同期間と比較して約５％増加した。



その内訳を地域別にみると、近畿地方からの来館者が全体の77.6%を占め、以下に、関東14.8%、中部4.1%と続く。また、近畿地方の内訳は、奈良県内在住者が83.2%であり、これは全国の内訳でも64.6%を占める数である。昨年度に比べ、奈良県外・近畿地方外からの来館者割合が増加している。

奈良県内の内訳では、田原本町在住者がおよそ半数を占める。年代別の入館者数では、15歳以下の割合が高めの傾向がある。夏休みの宿題の参考とするためか、子どもたちだけでの来館が多く見られた。

また、同時に実施していたアンケートでは、通りがかりに立ち寄った入館者が多く、様々な出土品を知ることができて良かった、もっと県内の人にアピールするべきという意見も寄せられた。おおむね好評であり、今後、よりよい文化財の活用に取り組むための参考意見としたい。

【夏季節電対策無料期間　年代別入館者数】

	15歳以下	高・大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	その他	合計
８月１～31日	319	236	1	53	121	161	112	168	68	9	117	1,365

※　10 代は、15 歳以下及び高・大学生以外で 16 ～ 19 歳の入館者数。
※　その他は、無回答など。

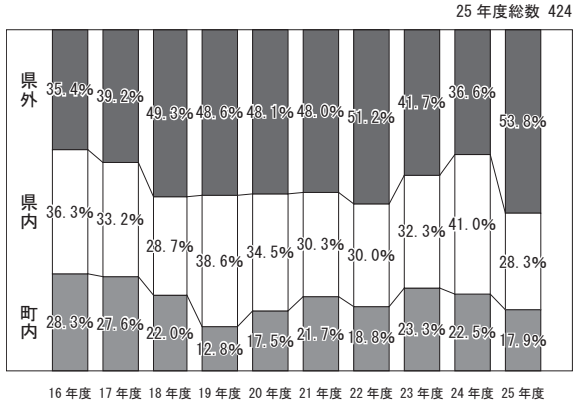
【夏季節電対策無料期間入館者　居住地内訳　奈良県】

田原本町	天理市	橿原市	奈良市	桜井市	三宅町	大　和郡山市	川西町	香芝市
48.4%	9.9%	8.7%	6.7%	5.5%	3.7%	3.6%	1.9%	1.6%
大　和高田市	生駒市	広陵町	葛城市	斑鳩町	大淀町	三郷町	御所市	宇陀市
1.5%	1.2%	1.2%	1.0%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
上牧町	五條市	安堵町	高取町	吉野町	河合町	下市町	王寺町	不　明
0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	1.6%

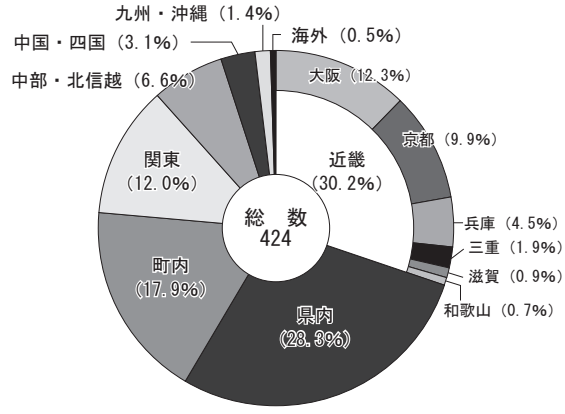
（3）入館者アンケート

入館者アンケート（常設展示）を実施した。回答総数413件、回答率４％である。

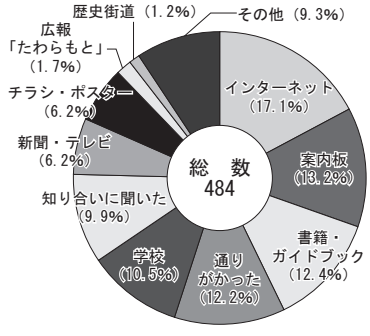
【入館者居住地別　年度推移】



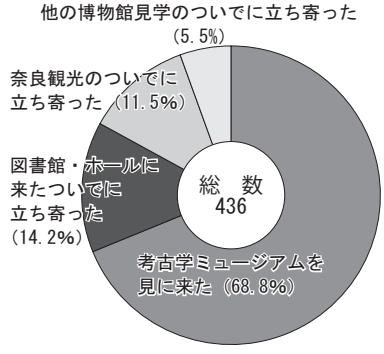
【入館者の居住地内訳】



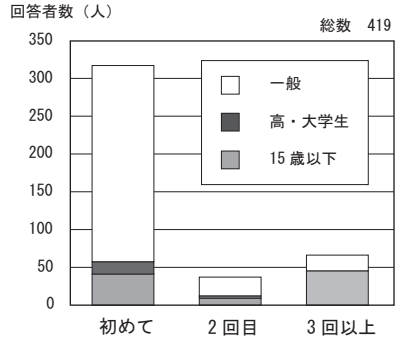
【ミュージアムを知った理由】



【来館目的】



【来館回数】



（4）視察・研修・学校等からの来館

平成25年度は、下記のとおり視察・研修２件25名、学校の利用11校718名、海外からの研究者９名の来館があった。

視察・研修　田原本町新規採用者研修（４月２日／８名）、田原本町教育委員会新任者研修（８月29日／17名）

学校利用　田原本町立田原本小学校６年生（４月12日／135名）、田原本町立北小学校６年生（４月23日／46名）、曽爾小学校（５月21日／16名）、明治大学（８月１日／14名）、専修大学（８月11日／29名）、奈良大学通信教育（８月３日・８月31日・２月15日・３月１日／196名）、日本大学（９月12日／19名）、田原本町立田原本小学校２年生（10月18日・10月22日・10月25日／128名）、田原本町立東小学校６年生（７月４日／21名）、國学院大学（10月27日／３名）、近畿大学附属小学校５年生（２月27日／111名）

海外研究者　ドイツ テュービンゲン大学（５月８日／９名）

（５）ホームページ

全ページを改装し、見やすく、わかりやすい情報発信を図った。

平成25年度のアクセス数は17,176件で、前年度より約６％増加した。

【ホームページのアクセス数】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
アクセス数	2,518	8,324	8,183	10,291	9,391	11,303	12,665	14,385	16,247	17,176
累　計	2,518	10,842	19,025	29,316	38,707	50,010	62,675	77,060	93,307	110,483

【トップページ（平成26年７月28日現在）】

４．ボランティア

（１）ボランティアガイドの実績

ミュージアムの展示品解説ボランティアは、開館以来実施している。ガイドは年度単位とし、継続更新は可としている。平成25年度のガイド登録は32名で、25年度の新規登録者は６名である。基本的に月２回の午前10時から午後４時（冬季の12月～２月は午前10時30分から午後３時30分）までとし、常駐２人体制で実施した。また、団体客等多数の来館の場合に備えて、応援ガイド体制を作りその時間帯のみ臨時に対応している。このような体制で、下表実績に示すとおり約４割の来館者に対応した。ガイドの研修は、新規登録者を対象に個別に実施した。

【展示ボランティアガイド実績】

月	開館日数	稼動人数	ガイド人数※1	入館者数（常設展のみ）
４月	25	40人	295人	581人
５月	27	48人	448人	796人
６月	26	43人	247人	462人
７月	26	44人	103人	388人
８月	27	42人	359人	1,365人
９月	25	39人	158人	409人
10月	27	47人	285人	625人
11月	26	39人	343人	1,044人
12月	23	33人	107人	418人
１月	23	42人	75人	302人
２月	24	38人	241人	504人
３月	26	46人	218人	495人
合　計	305	501人	2,879人（39％）※2	7,389人

※１　ガイド人数は概数
※２　ガイド人数／入館者の割合

（２）企画展受付ボランティア

春季と秋季の企画展開催にあたり、展示会場の受付ボランティアを募集した。春季企画展は32日間の会期中に延べ64名、秋季企画展は33日間の会期中に延べ68名が活動した。

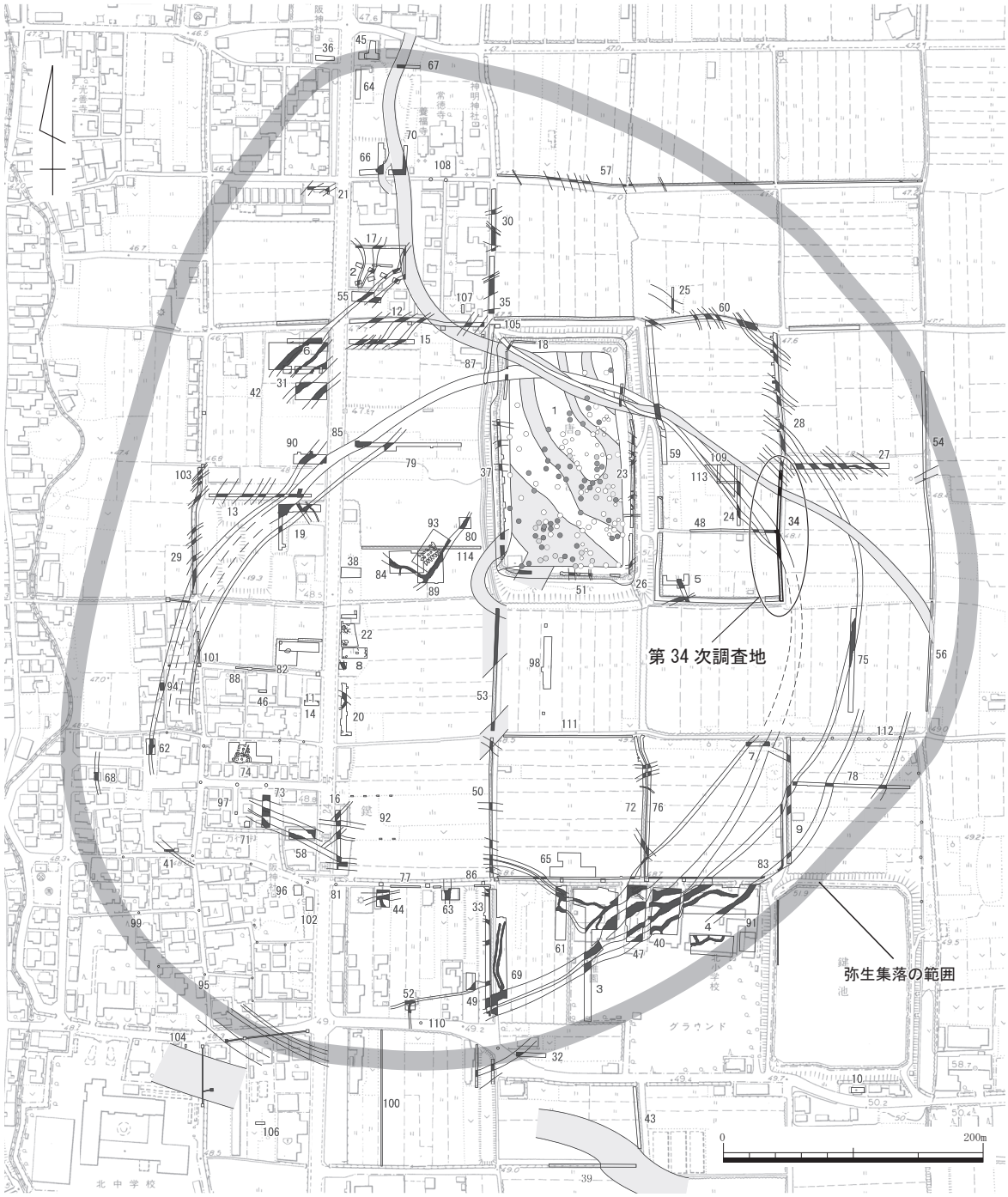
Ⅳ．資料の報告

唐古・鍵遺跡出土の須玖式土器

藤田　三郎

１．はじめに

唐古・鍵遺跡では、これまで第114次におよぶ調査が実施されてきた。これらの調査の中にはその一部を報告書や概要報告という形で公開してきた部分があるものの、多くはその全体像も明らかにできていないのも事実である。特に1977年以降、唐古・鍵遺跡の調査が継続的におこなわれるようになってきたわけであるが、それらの前半期においては、低湿地遺跡調査の先駆け的な部分におい



第１図　第34次調査地位置図（Ｓ＝1/5,000）

て、拠点集落の多種多様な遺物群とその膨大な出土量に対して、調査の方法や遺物処理において未熟な部分があり、結果的に適切に報告できていない部分もみられた。その意味において、唐古・鍵遺跡の整理マニュアルを作成しこれに基づき、再整理を実施しているところである。このような作業は、平成12年から断続的になるが実施しており、平成25年度においては、唐古・鍵遺跡第34次調査の土器約80箱分の再整理を実施した。今回紹介する土器は、この整理中において発見したもので、部分的な紹介になるが、遺物の重要性を鑑み、ここに報告するものである。

２．第34次調査および大環濠ＳＤ－102Ｃの概要

唐古・鍵遺跡第34次調査地は、遺跡の東部に位置し、大環濠部分にあたる。用水路改修工事の事前調査として、1988（昭和63）年２月15日～25日までの実労10日間の調査を実施した。調査は、南北用水路に合わせたトレンチの設定で、幅約2.5m、長さ約100mの約250㎡である。

調査地は、集落の居住区から環濠帯部分にあたる。弥生時代前期から古墳時代初頭までの土坑や柱穴、小溝、中期から後期にかけての環濠、古墳時代後期の土坑１基を検出したが、工期の関係から第１遺構面までの調査となった。また、出土遺物には弥生土器・木製品・石器などがある。

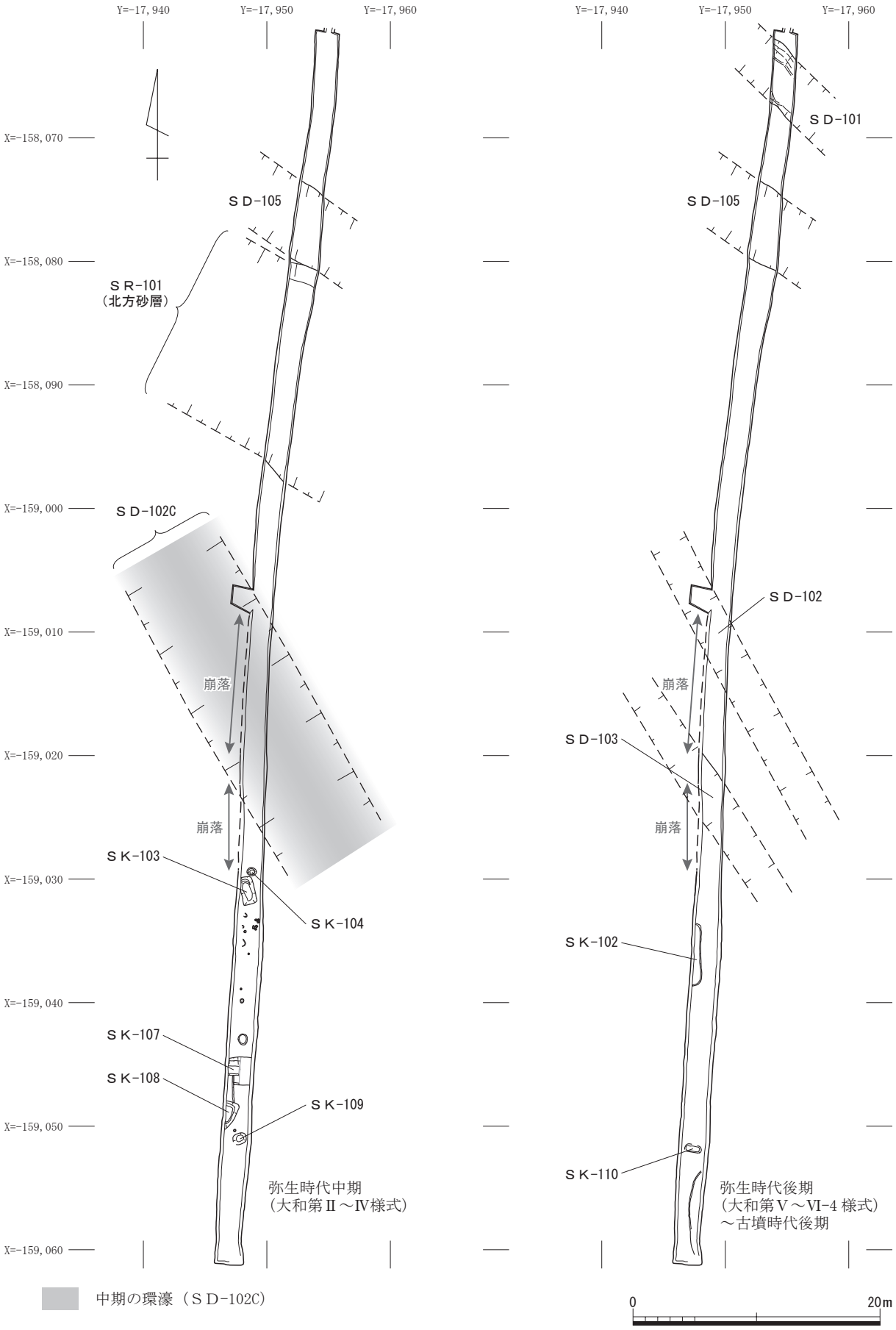
今回紹介する北部九州地域の土器は、集落を囲む一番内側の大環濠（ＳＤ－102Ｃ）から出土した。この大環濠の調査は、トレンチ幅が狭いにもかかわらず、環濠が大規模で深く堆積土が軟弱であったため、土層図の作成前にトレンチ壁面が崩落し、詳細な規模や堆積状況、再掘削状況については記録できず、調査時のスケッチ図のみとなった。しかしながら、これまでの各地点における大環濠の調査を照合すると、大和第Ⅱ－３－ｂ様式に掘削され、埋没・溝浚えを繰り返し、大きくは大和第Ⅴ－１様式と大和第Ⅵ－３・４様式に再掘削されるという変遷がたどれ、今回においても当初掘削時期は不明であるが、ほぼ同様な変遷を示していることは出土土器から知れるのである。ここでは溝の堆積状況から最終再掘削の北端環濠をＳＤ－102、南端の環濠をＳＤ－103、後期初頭の再掘削環濠をＳＤ－102Ｂ、中期掘削環濠をＳＤ－102Ｃとする。

当初の中期大環濠ＳＤ－102Ｃは、調査区中央やや南側で検出した。南南東から北北西方向に走行するもので、壁面崩落のため規模は不明であるが、幅約８～10mであったと推定される。ＳＤ－102ＢはＳＤ－102Ｃの北端で再掘削された環濠で幅３ｍ、深さ1.5m前後、ＳＤ－102はＳＤ－102Ｂ部分で再掘削された環濠で幅２ｍ前後、深さ１ｍ前後と推定される。ＳＤ－103はＳＤ－102Ｃの南端部分を再掘削された環濠で、幅２ｍ前後、深さ１ｍ前後であったと思われる。これら再掘削された

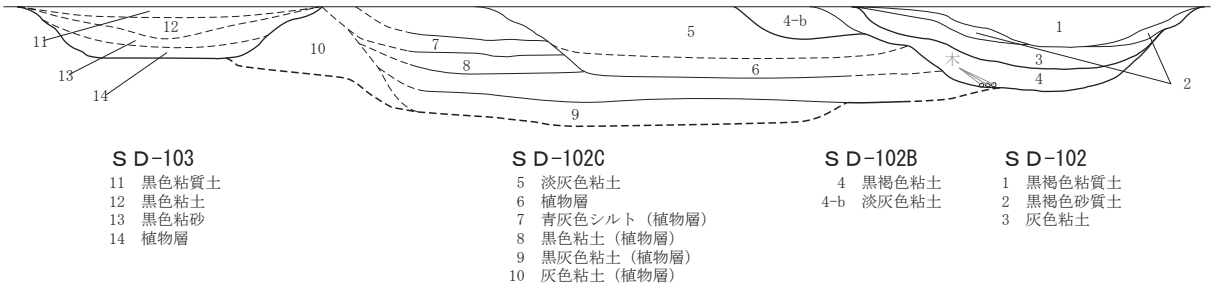
第１表　第34次調査環濠変遷一覧表

		Ⅲ				Ⅳ		Ⅴ		Ⅵ				庄内		
		1	2	3	4	1	2	1	2	1	2	3	4	1	2	3
ＳＤ-101																
ＳＤ-102	C															
	B															
	–															
ＳＤ-103																
ＳＤ-105																

◎：完形土器出土



第２図　調査区平面図（Ｓ＝1/450）



第３図　ＳＤ－102・Ｂ・Ｃ、ＳＤ－103西壁土層模式図

環濠は、いずれも中期環濠内で掘削されたもので走行方向はＳＤ－102Ｃと同じである。

ここでは、大環濠の堆積状況の土層模式図を第３図に示しておく。最下層は未調査であるが、下層（第10層）から最上層（第１層）までを確認した。ＳＤ－102Ｃの第５層から第10層までは、いわゆる中期大環濠の堆積土で、黒色粘土や灰色粘土を主体としている。第６層の植物層は溝浚え後の滞水状況を示すと思われ、出土土器量（コンテナ４箱）が最も多く、保存状態の良好な土器群である。須玖式の甕はその下の第７層から出土し、コンテナ1/2程度の土器量である。

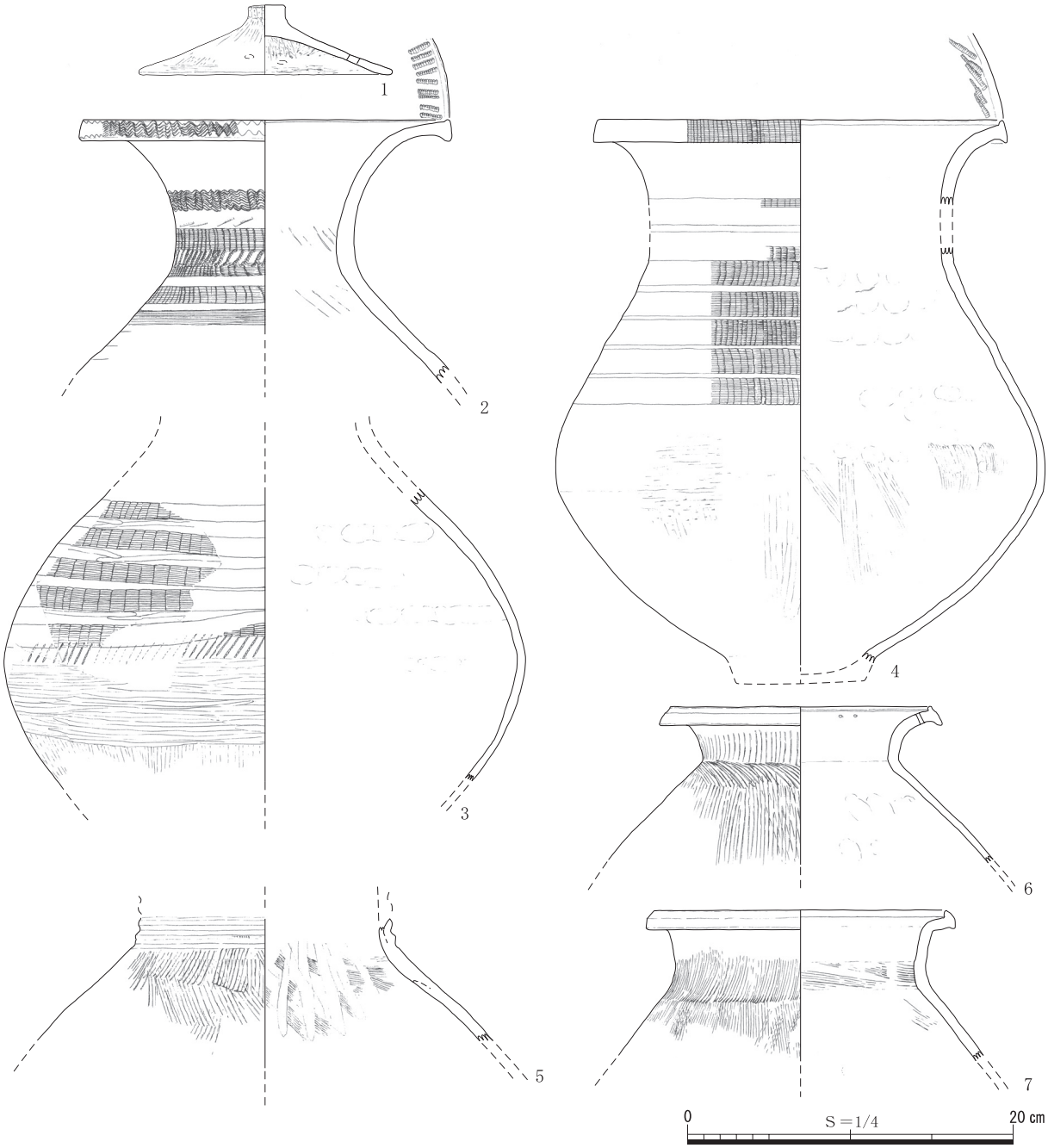
第９・10層は大和第Ⅲ－２様式が主体であるが、若干の大和第Ⅲ－３様式を含む。第７・８層は大和第Ⅲ－３及び大和第Ⅲ－４様式が主体、第５・６層は大和第Ⅲ－４様式が主体となる。これら各層の土器群は接する異層間での接合があり、溝浚えの結果を反映している可能性がある。いずれにしてもこれらの土層間での時期は、大和第Ⅲ－２様式から大和第Ⅲ－４様式の間に収まるものである。したがって、当該須玖式甕の所属時期については、大和第Ⅲ－３乃至大和第Ⅲ－４様式のいずれかの可能性が高い。

ＳＤ－102Ｂの第４層は黒褐色粘土層で、大和第Ⅴ－１様式の掘削後の堆積層である。この土層では木製盤未成品や臼状木製品が貯木されるような状態で出土している。ＳＤ－102の第３層は灰色粘土層、第２層は黒褐色砂質土層、第１層は黒褐色粘質土層で、大和第Ⅵ－４様式の土器が主体を占める。特に環濠最上層の第１層では、盆地東南部産の多量の完形土器が出土し、環濠を埋没させている。ＳＤ－103では堆積状況を示す図が無いが、土器の取上として第１～４層まである。第３・４層では中期土器を混在しながらも大和第Ⅴ－１様式が主体、第１・２層では大和第Ⅵ－３様式土器が主体となっているので、第１・２層は、後期初頭の環濠を再掘削した環濠の堆積である可能性が高い。このような状況から、ＳＤ－103はＳＤ－102Ｂ・102と同様の変遷を示していると思われる。

３．ＳＤ－102Ｃ出土土器

前述したとおりの土層状況から須玖式甕が出土した第７層とその上下する土層から出土した保存良好な大形破片を器種毎に抽出し、図化した。これら図化した土器は、特に断らない限り概ね大和第Ⅲ－３様式と大和第Ⅲ－４様式のものである。

第４図－１～７、第５図－８～14は、壷蓋・各種壷である。１は扁平な壷蓋である。内面はケズリ後ミガキをおこなう。また、裾部の器面が摩耗していることから壷口縁部との接触による使用痕と思われる。２は胴部から緩やかに外反する口頸部を有する広口壷である。口縁部は上下にわずかに肥厚し、上面に櫛描刺突文、端面に波状文を施文する。頸部上端には櫛描波状文、頸胴部界には



第４図　ＳＫ－104遺構平面図及び断面図（Ｓ＝1/40）

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第４図-1	壷蓋	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）扁平な体部に突出する摘まみ部。 （外）摘まみ部はケズリ。体部は縦位ミガキ後、裾部は横位ミガキ。２孔一対？の紐孔。 （内）体部はケズリ後、縦横にミガキ。特に天井部は丁寧なミガキ。	内面裾部に壷との接触による摩滅痕。
第４図-2	広口壷	ＳＤ-102Ｃ	第５・６層	（形態）頸部は大きく外反。口縁部端部は、上下に肥厚。 （外）口縁部・頸部から胴部：櫛描波状文２・簾状文３・直線文を施文後、簾状文間の頸胴部界に刺突文を施す。櫛原体幅10本／1.3㎝。 （内）口縁部上面に櫛描刺突文。	内面の胴部上半に摩滅痕。壷破損後に口頸部を逆転させ器台として使用？
第４図-3	広口壷	ＳＤ-102Ｃ	第５・６層	（形態）やや扁球形の胴部。 （外）胴部上半に櫛描簾状文５・最下段に刺突文を施す。簾状文間にミガキ（暗文）を挿入。櫛原体幅15本／1.7㎝。胴部下半は縦位ミガキ後、胴部中央を横位ミガキ。 （内）丁寧なナデ。	外面に煤付着。

櫛描刺突文とその上下に簾状文、胴部に直線文を施す。３は胴部のみの破片で、櫛描文は簾状文が主体で下端に刺突文を巡らす。簾状文間にはミガキを挿入する。全面に煤が付着している。４は瀬戸内地域からの搬入の壷であろうか。頸胴部片で頸部には凹線文、胴部はハケ調整を施している。５は胴部が下膨れで簾状文を多用した広口壷である。全体は被熱のため、淡赤褐色を呈している。中河内地域の土器の可能性がある。６・７はハケ調整仕上げの壷で、この形式ではやや大形で７は器壁がやや厚い。６は煮沸に使用されたため、内面に炭化物が付着している。８～11は細頸壷である。８は胴部片で精緻な縦型流水文を施す。９はやや厚手の細頸壷で櫛描直線文間に太めのミガキを挿入する。このような手法をとることや形態的にも大和第Ⅲ－２様式に所属するものと考えられる。10は中形、11・12は大形の細頸壷である。10は櫛描直線文と刺突文、11は簾状文と刺突文、円形浮文で構成される頸部である。12の胴部では櫛描直線文間に斜格文と円形浮文、最下段に波状文を巡らす。11・12のような大型の細頸壷は大和第Ⅲ－４様式に所属と考えられる。13・14は無頸壷である。13は櫛描簾状文主体で最下段に刺突文を巡らす。14は丁寧なミガキで器面仕上げをおこなった無頸壷である。14の口縁部は外面側に粘土帯を平たく貼付し、口縁端部を作る。端部外面側が摩耗しており、蓋との接触による使用痕と思われる。このような使用痕跡から少し大きさが異なるが１の蓋がセットになる可能性もある。

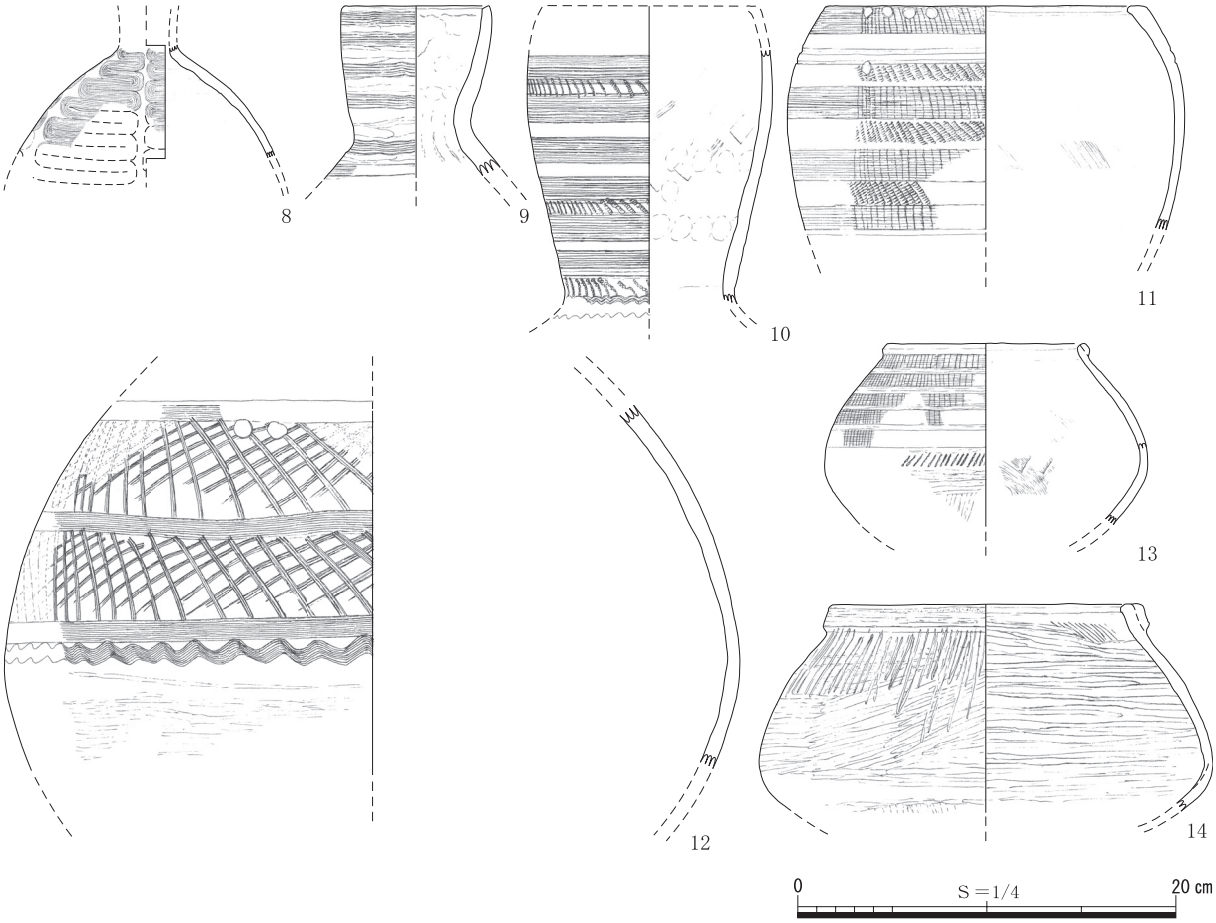
第６図－15～23は甕で、小形（15・16）・中形（17・18・19）・大形（20・21）に分けることができる。15は外面ケズリ後ミガキをおこなう。16～21の甕の口縁部は強く外反屈曲させ、口縁部のヨコナデ手法が発達したもので端部は上方へ肥厚させるものが多い。18の甕内面の胴部下半ではケズリがみられる。19の甕外面の胴部中央にはヘラに刺突文が巡らされている。

22は北部九州地域からの搬入土器と考えられる甕の口縁部である。口縁部を外側に強く屈折させ逆「Ｌ」字形にしている。内面側の屈曲部分の突出はないが、屈曲部は明瞭である。口縁部は内外面とも強いヨコナデを施している。外面には斜位のハケ調整がみられる。器面全体はやや摩滅しているが、口縁部上面には赤彩が部分的に残存している。また、成形においては粘土紐でなく板づくりの可能性がある。

23は伊勢湾岸地域からの搬入土器と考えられる甕で、頸部から胴部にかけての破片である。外面は縦位の条痕後、横位方向の条痕を施す。内面にはわずかに横位ハケ状の痕跡がみられる。この土器は第10層出土であり、大和第Ⅲ－２様式に所属するかもしれない。

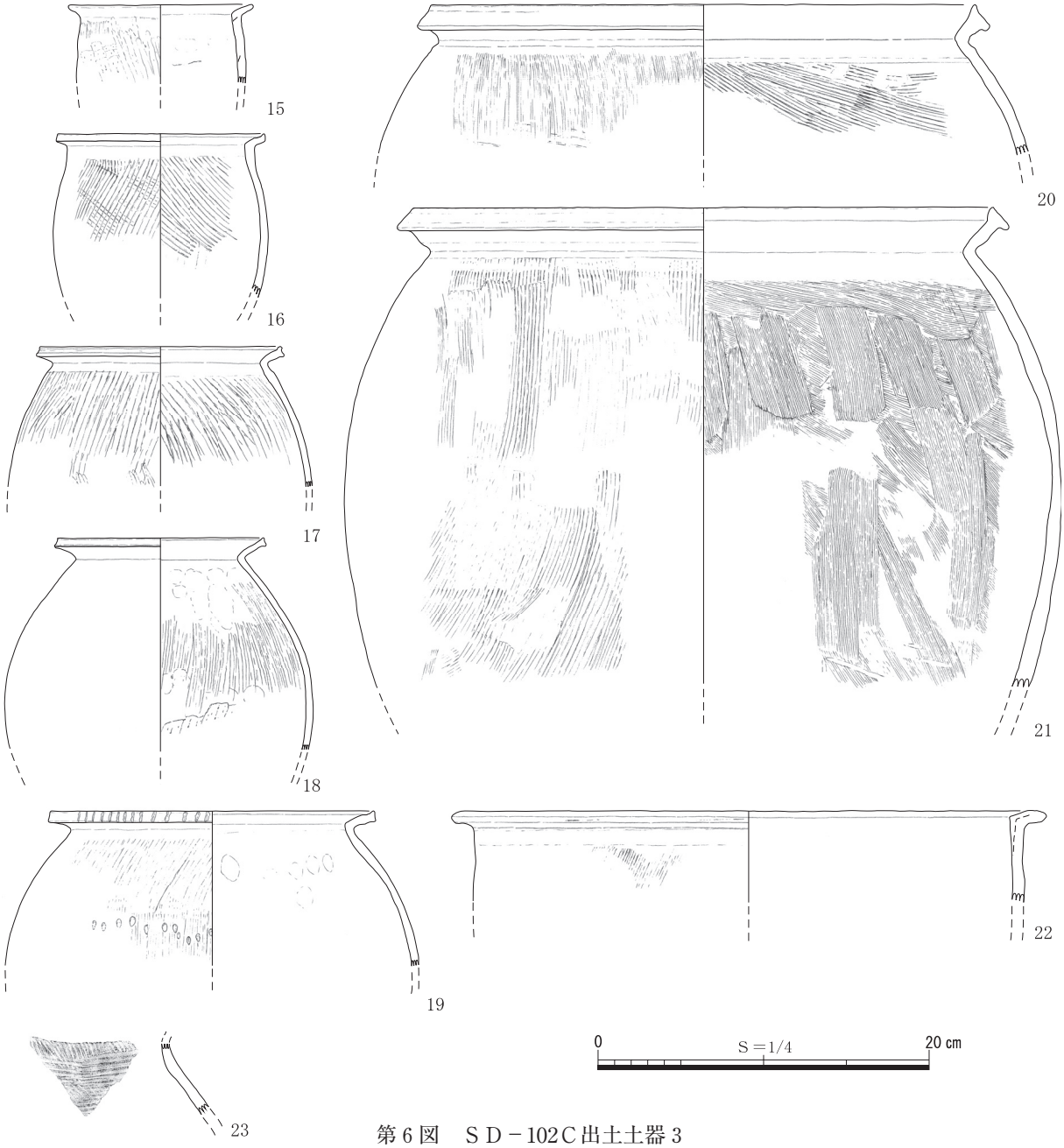
第７図－24～37は鉢・高坏である。これらの多くは、内外面ともヨコナデ・ミガキ調整によって

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第４図-4	広口壷	ＳＤ-102Ｃ	第５・６層	（形態）やや扁球形の胴部に短く外反する口頸部。口縁部は上下に肥厚。 （外）口縁部から胴部上半に櫛描簾状文８。櫛原体幅14本／1.8㎝。胴部下半は横位ケズリ後、縦位ミガキ。胴部中央は横位ミガキ。 （内）口縁部上面に櫛描刺突文。胴部は縦位ハケ後ナデ、上半は丁寧なナデ。	内外面とも被熱により淡赤褐色を呈す。中河内産？
第４図-5	広口壷	ＳＤ-102Ｃ	第５層	（形態）胴部は上部で肩の張る形態。 （外）頸部に凹線文。胴部は全体に粗いハケ。 （内）左上がりのハケ後ナデ。	瀬戸内系の壷。
第４図-6	広口壷	ＳＤ-102Ｃ	第７層	（形態）口頸部は短く外反し、口縁端部は上下に肥厚。６方向に２孔一対の紐孔。 （外）口縁部はヨコナデ、全体に粗いハケ。 （内）口縁部はヨコナデ。胴部はナデ。	外面に煤、内面に炭化物付着。
第４図-7	広口壷	ＳＤ-102Ｃ	第８・９層	（形態）頸部は短く直立し、口縁部で屈曲する。口縁端部は上下に肥厚。 （外）口縁部はヨコナデ、全体に細条のハケ。 （内）口縁部はハケ後、ヨコナデ。胴部はハケ後、ナデ。	



第５図　ＳＤ－102Ｃ出土土器２

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第５図-8	細頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第６・８層	（形態）下膨れの球形の胴部。 （外）胴部上半に精緻な櫛描の縦型流水文（6分割）。櫛原体幅11本／0.8cm。 （内）丁寧なナデ。	
第５図-9	細頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第６・８層	（形態）短く直口する口頸部。口縁端部は面をもつ。 （外）頸部から胴部に櫛描直線文。櫛原体幅7本／0.8cm。直線文間には、ミガキ（暗文）を挿入。 （内）全体にナデ。	
第５図-10	細頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）頸部に膨らみをもつ口頸部。 （外）頸部に櫛描直線文６帯（櫛原体幅12本／1.5cm）以上。その後、直線文間に３帯の刺突文（櫛原体幅9本／1.2cm）。胴部上端は波状文？。 （内）全体にハケ後ナデ。	
第５図-11	細頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）頸部に膨らみをもつ口頸部。口縁端部は面をもち、内方へ肥厚。 （外）口頸部に櫛描簾状文（櫛原体幅12本／1.5cm）・凹線文２条・刺突文・簾状文を交互に施文。口縁部上端と凹線文下（６方向）に円形浮文を貼付。 （内）全体にハケ後ヨコナデ。	
第５図-12	細頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第10層	（形態）球形の胴部。 （外）３条の櫛描直線文（櫛原体幅12本／1.35cm）間に斜格文（櫛原体幅3本／0.45cm）。最下段に波状文。斜格文上に円形浮文（２個一対）を貼付。胴部中央は横位ミガキ。 （内）全体に丁寧な下から上へのナデ。	
第５図-13	無頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）扁球形の胴部。口縁部は、外面側に肥厚。 （外）５条の櫛描簾状文（櫛原体幅10本／0.9cm）間にミガキ（暗文）。最下段に刺突文（櫛原体幅5本／1.05cm）。胴部下半は縦位ミガキ後、胴部中央を横位ミガキ。 （内）細条のハケ後丁寧なナデ。	
第５図-14	無頸壷	ＳＤ-102Ｃ	第７・８層	（形態）扁球形の胴部。口縁部は、外面側に肥厚。 （外）胴部中央から上半・口縁部は横位ミガキ、胴部下半はケズリ？後縦位ミガキ。最終的に口縁部から胴部上位を縦位ミガキ。 （内）ハケ後横位ミガキ。	口縁端部は蓋との接触による摩滅。

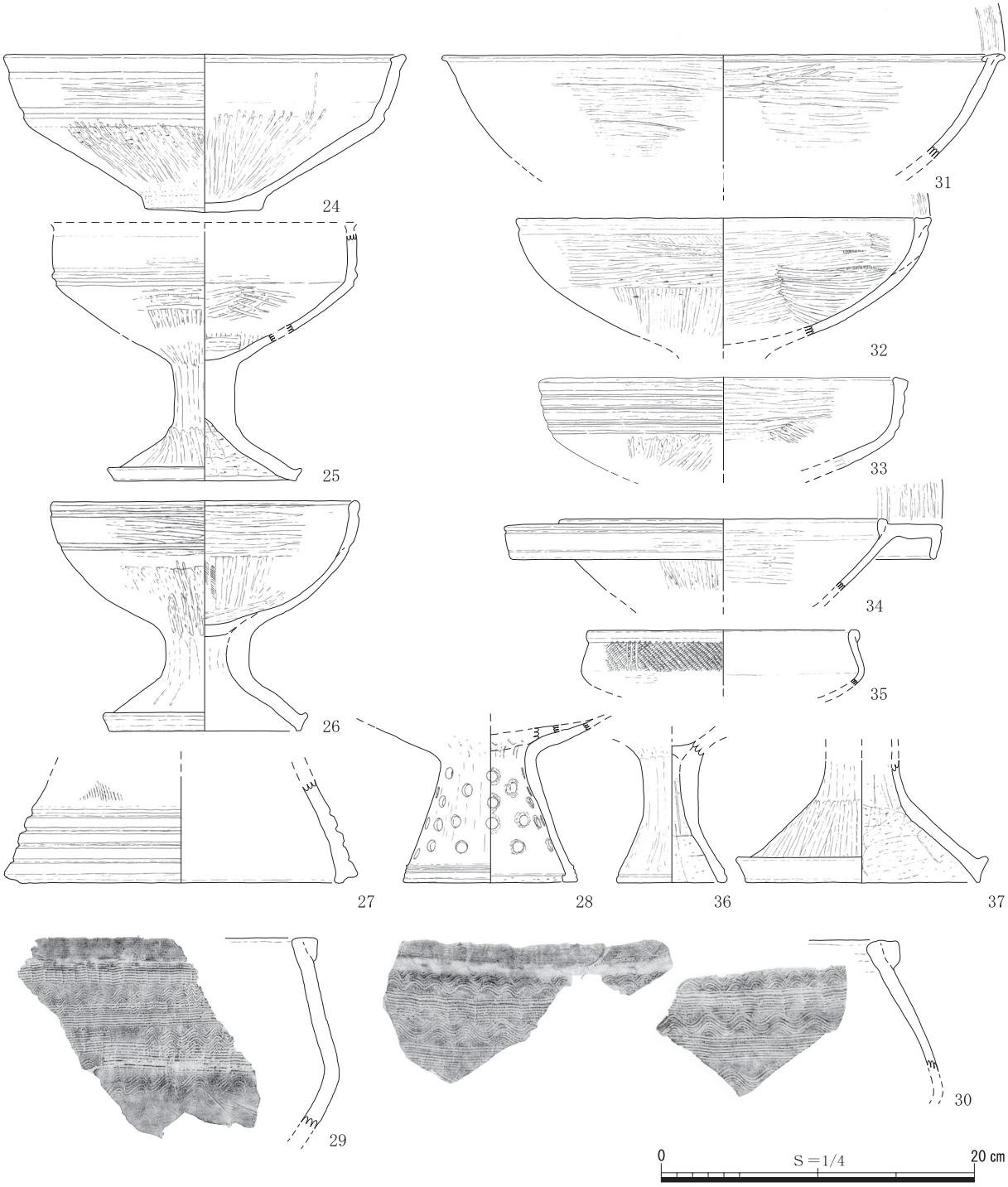


第６図　ＳＤ－102Ｃ出土土器３

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第６図 -15	甕	ＳＤ-102Ｃ	第６・９層	（形態）縦長の球形の胴部。口縁部は、短く外反。口縁端部は薄い。 （外）胴部はケズリ後ミガキ。口縁部はヨコナデ。 （内）ナデ。	外面に煤付着。
第６図 -16	甕	ＳＤ-102Ｃ	第７層	（形態）膨らみの少ない胴部。口縁部は、短く外反。口縁端部は上方へ肥厚。 （外）胴部はハケ。口縁部はヨコナデ。 （内）ハケ。	外面に煤付着。

仕上げ、凹線文も口縁部や屈曲部、裾部に採用されるものが多い。24・25・26・32・33・34の外面はケズリによって器壁を薄く平滑にし、ミガキで仕上げている。25・36・37の脚台・脚部の内面ではケズリをおこなっているが、26・27・28はヨコナデ調整で仕上げている。25は中実の脚台、26・28・36は円盤充填技法がみられるものである。29・30は大形鉢で、いずれも口縁部は外側に粘土帯を貼付し肥厚させている。体部には櫛描を簾状文・波状文、波状文・簾状文・直線文を交互に施文

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第６図 -17	甕	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）縦長の球形の胴部。口縁部は、短く外反。口縁端部は上方へ肥厚。 （外）胴部はハケ。口縁部はヨコナデで、凹線文を巡らす。 （内）ハケ。	外面に煤付着。
第６図 -18	甕	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）縦長の球形の胴部。口縁部は、短く外反。口縁端部は上下に肥厚。 （外）胴部は丁寧なナデ（タタキを消す？）。口縁部はヨコナデ。 （内）上半ハケ。下半ケズリ。	外面に煤、内面に炭化物付着。
第６図 -19	甕	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）縦長の球形の胴部。口縁部は、短く外反。口縁端部は上方へ肥厚。 （外）胴部はハケ。中央に刺突文（ややランダム）。口縁部はヨコナデ。端部はヘラによる刺突（刻目）。 （内）ナデ。	外面に煤、内面に炭化物付着。
第６図 -20	甕	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）口縁部は、短く外反。口縁端部は上下に肥厚。 （外）胴部はハケ後ナデ。口縁部はヨコナデ。 （内）斜位ハケ。	外面に煤付着。
第６図 -21	甕	ＳＤ-102Ｃ	第５・６・８層	（形態）縦長の球形の胴部。口縁部は、短く外反。口縁端部は上下に肥厚。 （外）胴部は縦位ハケ後ナデ。口縁部はヨコナデ。 （内）細条のハケ。	胴部下半の外面に煤付着。
第６図 -22	甕	ＳＤ-102Ｃ	第７層	（形態）胴部から強く逆Ｌ字に屈曲する口縁部。口縁部は、水平に外反。口縁端部は丸い。 （外）胴部は斜位ハケ。 （内）ナデ。	北部九州産（須玖式）。 口縁部上面に赤彩残存。
第６図 -23	甕	ＳＤ-102Ｃ	第 10 層	（形態）胴部から緩やかに外反する頸部。 （外）縦位の条痕後、横位の条痕。 （内）ハケ？	外面に煤付着。 伊勢湾岸地域。
第７図 -24	鉢	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）底部から外上方へ屈曲する口縁部。口縁部は内方へ肥厚。 （外）口縁部と体部・口縁部界に凹線文。底部はケズリ後ミガキ。口縁部はヨコナデ。 （内）縦位ミガキ。	
第７図 -25	台付鉢	ＳＤ-102Ｃ	第６・８層	（形態）鉢部から上方へ屈曲する口縁部。脚部は中実。 （外）口縁部と鉢部・口縁部界に凹線文。鉢部はケズリ後ミガキ。脚部ミガキ。 （内）鉢部は横位ミガキ。脚部はケズリ。	
第７図 -26	台付鉢	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）埦形の鉢部。口縁端部は丸い。脚台部は低脚で円盤充填技法。 （外）口縁部と鉢部に凹線文。鉢部はケズリ後ミガキ。脚部ミガキ。 （内）鉢部底面は縦位ミガキ。口縁部は横位ミガキ。脚部はヨコナデ。	
第７図 -27	台付鉢	ＳＤ-102Ｃ	第８層	（形態）「ハ」の字状の脚台。 （外）裾部に凹線文４条。ヨコナデ。 （内）ヨコナデ。	
第７図 -28	台付鉢	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）「ハ」の字状の脚台。下端部は内側に肥厚。 （外）裾下端部はヨコナデで凹線文状になる。円形透孔をランダムに３・４段入れる。 （内）ヨコナデ。下端部の突出部はケズリ。	被熱による器面赤変。摩滅。
第７図 -29	大鉢	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）やや内向ぎみの口縁部。口縁端部は外側に粘土帯を貼付し肥厚させる。 （外）櫛描簾状文３条施文後、その文様間に波状文を充填。櫛原体幅９本／1.7cm。 （内）粗いハケ後ナデ。	
第７図 -30	大鉢	ＳＤ-102Ｃ	第３・６・９層	（形態）内向ぎみの口縁部。口縁端部は外側に粘土帯を貼付し肥厚させる。 （外）櫛描波状文・簾状文・波状文・直線文・波状文を上から下へ施文。櫛原体幅9本／1.7cm。 （内）粗いハケ後ナデ。	
第７図 -31	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第５層	（形態）浅い埦形の坏部。口縁部は、内外に肥厚。上面は平坦。 （外）横位ミガキ。 （内）横位ミガキ。	
第７図 -32	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）浅い埦形の坏部。口縁部上面はやや凹む。 （外）口縁部に凹線文。坏部下半はケズリ後縦位ミガキ。口縁部は横位ミガキ。 （内）横位ミガキ。	
第７図 -33	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）坏底部から直立ぎみに立ち上がる口縁部。口縁部上面は平坦。 （外）口縁部に４条の凹線文とミガキ。坏部下半はケズリ後ミガキ。 （内）横位ミガキ。	
第７図 -34	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第７層	（形態）水平垂下口縁部。垂下部は短い。 （外）垂下口縁部に２条の凹線文。上面はミガキ。坏部下半はケズリ後ミガキ。 （内）横位ミガキ。	
第７図 -35	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）坏底部から直立ぎみに短く立ち上がる口縁部。口縁部は外側に粘土帯を貼付し肥厚させる。端部はやや丸い。 （外）櫛描刺突文。櫛原体幅19本？／2.5cm？。櫛描文上に縦位暗文３本（ミガキ）。 （内）ナデ。	被熱による赤変。摩滅。
第７図 -36	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）柱状の脚部に短く外反する裾部。 （外）柱状部はナデ。裾部はヨコナデ。 （内）ケズリ。	外面に煤付着。
第７図 -37	高坏	ＳＤ-102Ｃ	第８層	（形態）柱状の脚部に大きく外反する裾部。端部は上方へ突出する。 （外）柱状部・裾部はミガキ。裾端部はヨコナデ。 （内）ケズリ。	



第７図　ＳＤ－102Ｃ出土土器４

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第８図 -38	器台	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）裾部はやや内湾ぎみに立ち上がる。体部中央部から緩やかに外反する口縁部。口縁部は上下に肥厚。 （外）口縁端部、体部中央と裾部に凹線文。体部の凹線文間に円形透孔と斜格文充填の鋸歯文。体部はハケ後ナデ。 （内）ナデ。	体部上半の内面に壷等の接触による摩滅痕。
第８図 -39	器台	ＳＤ-102Ｃ	第６・７層	（形態）裾部はやや内湾ぎみに立ち上がる。体部中央部から緩やかに外反する口縁部。口縁部は上下に肥厚。 （外）口縁端部に凹線文と円形浮文。上面に櫛描刺突文。体部中央と裾部に凹線文。体部の凹線文間に円形透孔。体部は細条のハケ後ナデ。 （内）ナデ。	体部上半の内面に壷等の接触による摩滅痕。搬入品？
第８図 -40	台形土器	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）円板状の平坦な天井部。水平に拡がる。 （外）端部はヨコナデ。上面はミガキ。 （内）ナデ。	天井部のひび割れを粘土補修。

している。35は被熱のため器面の状態は悪いが、櫛描刺突文を巡らすもので中河内産の可能性がある。

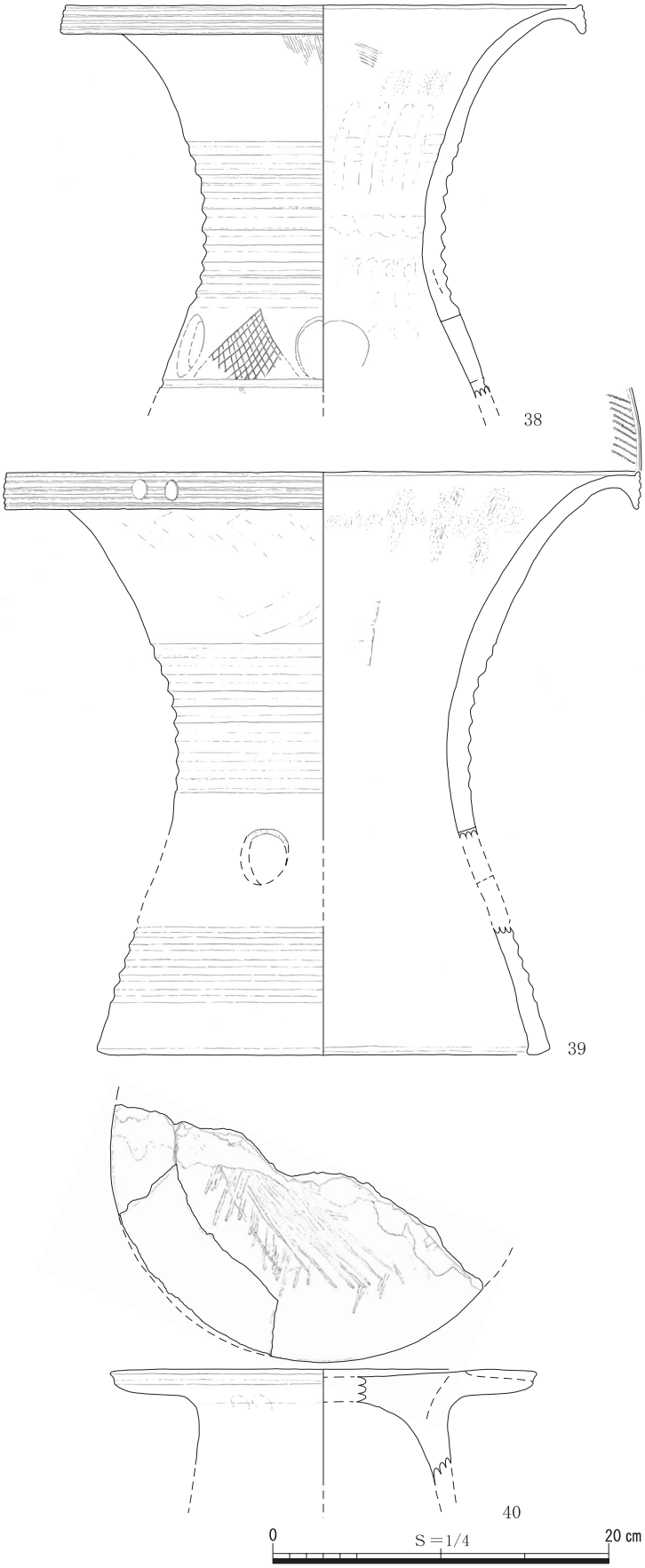
第８図－38・39は器台である。いずれも口縁部は上下に肥厚し、端面・体部中央・裾部には凹線文を巡らす。38では斜格文を充填した鋸歯文が線刻されている。39では口縁部上面に櫛描刺突文、口縁部端面の凹線文上に円形浮文を貼付する。これら器台の体部上半の内面には、壷等との接触による摩滅痕が認められる。39の器台は色調が乳褐色を呈し搬入品の可能性がある。

第８図－40は台形土器である。円盤状の天井部を有するもので、脚台部から横方向に大きく外反する。天井部には土器乾燥時のひび割れを粘土補修した痕跡が残る。

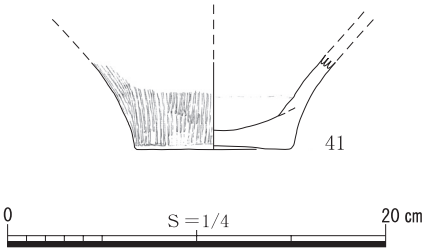
第９図－41は、大和形甕の底部で裏面に布圧痕がみられる。

４．まとめ

今回の唐古・鍵遺跡の大環濠から出土した土器群は、中期段階での環濠溝浚え等の混在が認められるものの、ほぼ中期中頃（大和第Ⅲ－３様式乃至大和第Ⅲ－４様式）におさまる資料群としてとらえることができるものである。これら在地の土器と共伴する形で出土した須玖式と認められる甕は、今後詳細な所属時期の特定が必要であるが、須玖Ⅰ式の新段階ごろに相当すると考えられる。これにより北部九州地域と近畿地方との１つの接点が作れるようになった。唐古・鍵遺跡における西方地域からの搬入土器は、これまで中期後半（大和第Ⅳ様式）から後期初頭



第８図　ＳＤ－102Ｃ出土土器５



底部写真：S＝1/2

第９図　ＳＤ－102Ｃ出土土器６

遺物番号	器種	遺構	取上層位	調整ほか	備考
第９図 -41	甕	ＳＤ-102Ｃ	第６層	（形態）緩やかに外反する底部。 （外）縦位ハケ。 （内）ナデ。	底部裏面に布圧痕（縦約11本・横約８本／cm）。

（大和第Ｖ様式）の吉備地域の搬入土器が最も遠方の土器であった。今回の須玖式土器は、東方展開（近畿地方内陸部）の資料として重要になろう。

最後になったが、須玖式土器については、石田智子、川上洋一、田崎博之、常松幹雄、寺澤 薫、柳田康雄諸氏からご教示を賜った。記して感謝いたします。

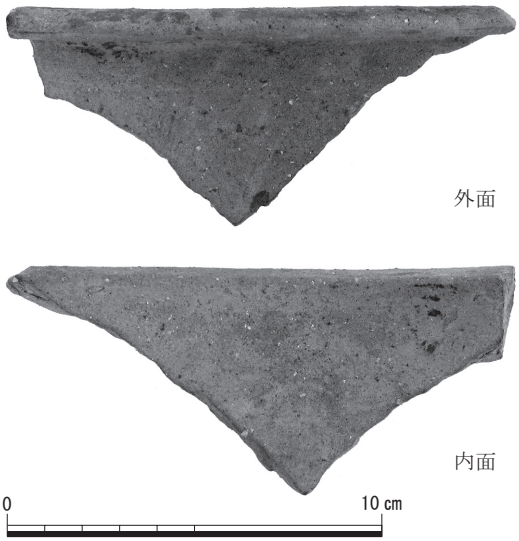
参考文献

石田智子　2011「寒水川・切通川流域における弥生時代中期の土器様相」『みやき町文化財調査報告書第５・６集』

田崎博之　1985「須玖式土器の再検討」『史淵』第122号　九州大学文学部

田崎博之　1998「九州系の土器からみた凹線文系土器の時間的位置」『平成７年度～平成９年度科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）研究成果報告書　日本における石器から鉄器への転換形態の研究（07451088）』

常松幹雄　2013「弥生土器の東漸」『弥生時代政治社会構造論』雄山閣



※外面・内面のスケール

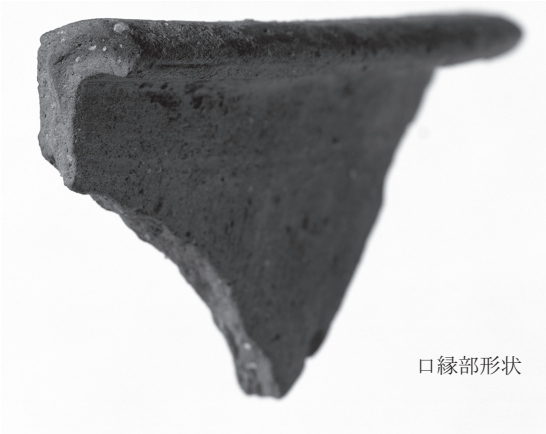


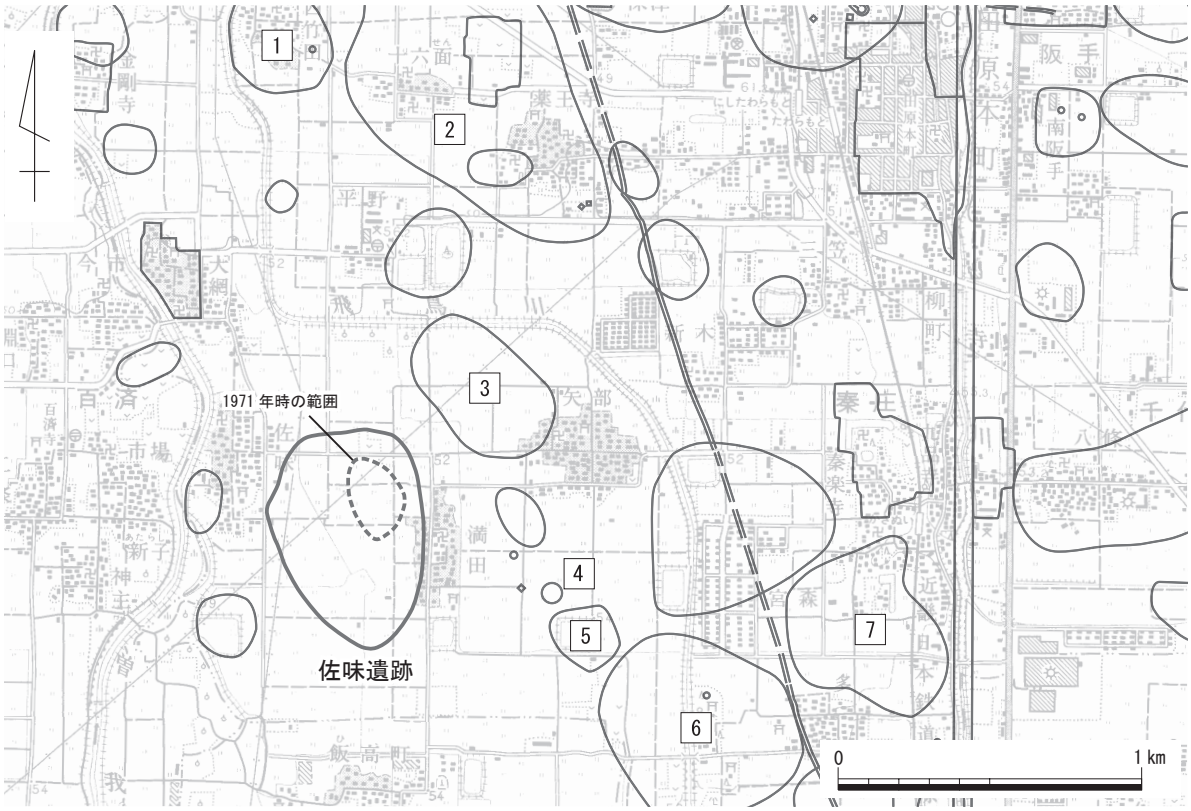
写真１　須玖式土器

佐味遺跡採集の遺物

藤田　三郎

１．はじめに

田原本町南西部に位置する佐味遺跡は、標高48～49mの沖積地に立地する縄文から近世にかけての複合遺跡である。この遺跡は2013年１月～２月にかけて実施された第２次調査で弥生時代中期の方形周溝墓や中世の居館関係の遺構が検出され、初めて遺跡の内容が明らかになった。調査は当然



■主な遺跡■

1　西竹田遺跡	2　十六面・薬王寺遺跡	3　矢部遺跡	4　団栗山古墳
5　矢部南遺跡	6　多遺跡	7　秦庄遺跡	

第１図　田原本町南西部遺跡分布図（Ｓ＝1/25,000）

写真１　中ノ橋川現況（北から）

写真２　内田地区現況（北東から）

ながら現在の遺跡地図に明記されていることに基づき実施したわけであるが、現在、登載されている範囲は当初からのものではなく、今回紹介する遺物の採集が契機となって遺跡範囲の拡大と時期が決められたという経緯がある。既に遺物採集から40年余り経過しているが、今回、第２次調査の成果が報告されるのにあたり、遺跡の性格を含めその内容が深められると考えられることから、ここで紹介するものである。

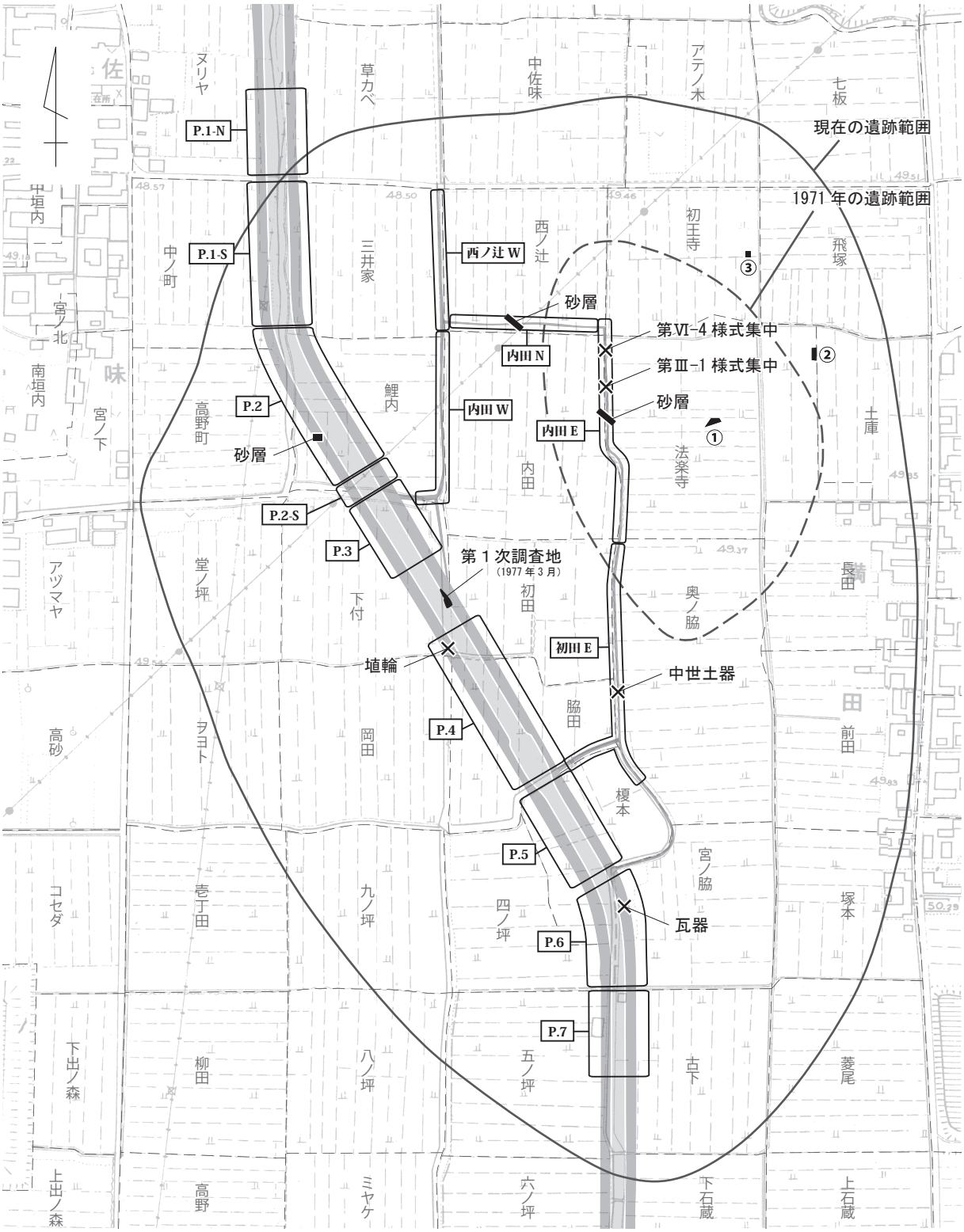
遺物は、筆者が佐味集落と満田集落の間を北流する中の橋川の河川改修に伴う河川敷及び、それに伴う水路改修（新設？）工事の際の排土から採集したものである。河川改修は水田部分を斜めに約400mにわたって縦断するように掘削されたものである。河川敷での採集は、1974年５月に２日、12月に１日、1975年は５・６・９～11月に６日、1976年は２～４・６・７・９・11月に13日、1977年の３月に２日実施している。これらの採集日は、河川の渇水期で河床を踏査できる日におこなったためである。また、水路改修工事に伴う採集は、1976年12月の末であった。

２．佐味遺跡の概要と採集地点

当初の佐味遺跡の範囲が示されたのは1971年発行の『奈良県遺跡地図』[1]であり、東西約200m、南北約340mの小規模なものであった。この段階では、1893年の『大和國古墳墓取調書』[2]に記載されている３基の古墳墓（丙号）（第２図）については漏れており、周囲の水田面より一段高い畑地のみで古墳墓という認識はなかったものと思われる。これら古墳墓については既に末永雅雄氏が『平野村史』[3]の中でこの地域の歴史を概説するにあたり、この古墳墓付近の小字名に「ホーラクジ（宝楽寺・法楽寺？）」・「ハッホジ（初穂寺）」などの寺名が存在することから寺院の存在を指摘している。おそらく、古墳としては小規模であることから寺院の土壇的なものを想定していたのではなかろうか。このような見解は現在の調査成果からすれば、小字名を含めて中世居館の存在をも示唆するものとみなすことができよう。佐味遺跡に関しては、以上のような断片的な情報のみで遺跡としての面的な広がりや性格を考察するには至っていなかったが、後述するような結果、遺跡の範囲は東西約520m、南北約760mの広範囲となった。

このような状況の中、中の橋川の河川改修工事が実施されたわけであるが、筆者が遺物の出土を知ったのは河川本体工事がほぼ終了した段階であった。その後、大学に入学した1976年の冬、中の橋川東側の水路工事が実施されたのを知り、直ぐに遺物を採集するとともに大学で考古学実習を担当されていた奈良県立橿原考古学研究所の調査課長　石野 博信氏（当時）に連絡をとり、12月末に現地と採集遺物の確認をしていただいた。このような経緯があったため、その後、奈良県立橿原考古学研究所において残余の工区を第１次調査として1977年３月に実施されたが、調査面積が小規模で顕著な遺構は検出されていない。

筆者が採集した遺物は、大きく分けて２つの地区である。１つは既に工事が終了していた中の橋川の河川敷（1974年５月～1976年９月採集、P.１N～P.７地点）、２つ目は中の橋川河川改修に伴い東側に用水路を新設（改修？）した区間（1976年12月末採集、初田E～西ノ辻E地点）である。後者は工事掘削直後に立ち会えたもので、遺物の出土地点や層位、遺物の状況もある程度把握することができた。



【中の橋川 河川敷地区】
P.1-N/S・P.2/-S・P.3・P.4・P.5・P.6・P.7

【中の橋川 東側地区】
西ノ辻 W・内田 W/N/E・初田 E

『大和国古墳墓取調書』記載の古墳墓

	所在地	古墳墓取調書番号	面積・規模
①	大字満田小字法楽寺 161 番	第三三九号	七歩・九間
②	大字満田小字法楽寺 164 番	第三四〇号	一歩・四間
③	大字満田小字初王寺 204 番	第三四二号	二歩・四間

0　200 m

第 2 図　採集地点の地区分け（S ＝1/4,000）

第１表　採集地点別の内容一覧表

地区	地区	縄文土器	弥生土器／古式土師器			古代土器		中世土器		近世土器		遺物量	備考
		晩期	Ⅲ・Ⅳ	Ⅵ-4	布留式	土師器	須恵器	土師器	瓦器 陶器	土師器 瓦質土器	陶磁器		
中の橋川 河川敷地区	P.1-N		△							△		ナ・小	
	P.1-S		△		△	△	△			△		ナ・中	
	P.2		△	△	△	◎	◎			△		コ・１	石剣・管玉・ミニチュアの竈片
	P.2-S		△	△		△	△			△	△	コ・1/3	
	P.3		△	△	△	△	△			△	△	ナ・中	
	P.4	1	△		△	◎	◎	△	△	△	△	コ・２	円筒埴輪・墨書（人面？） 土器・線刻絵画の皿
	P.5	6				◎	◎	△	△			ナ・中	
	P.6							△	△			ナ・小	
	P.7	1					△	△	△			ナ・中	
中の橋川 東側地区	西ノ辻W							？	△	△		ナ・小	
	内田W									△	△	ナ・小	
	内田N									△	△	ナ・中	
	内田E		◎	◎	○	○	○	△			△	コ・４	完形土器（大和第Ⅵ-4様式）
	初田E		◎	◎	△	◎	◎		△			コ・2/3	

※　◎：多い（コンテナ1/3以上）、○：有（10点以上）、△：少ない（10点以下）、？：不明　／　ナ・中・小はナイロン中袋・小袋　／　コはコンテナでの箱数

３．採集地点の詳細

（１）中の橋川－河川敷地区

河川敷地区では、北からおおよそ100mの小字単位を１つの目安として、P.１－N、P.１－S、P.２～７の地点に分けて採集した。これら遺物は河川敷採集ではあるが、新設の河川によって掘削され遺物包含層が露出したために採集できたもので摩耗しているものは少なく、ほぼ原位置のものとみなすことができるものである。これら採集地点の延長は、南北約600mで、この間では第１表に示すように地点毎によって遺物種に偏りがみられ、以下にその概要を述べる。

１．P.２～４地点においては、弥生時代中期と後期、古式土師器の土器が認められるが少なく、散在している。注目される遺物として、打製石剣や碧玉製管玉各１点がある。P.２地点では灰黄色砂層が露出している部分があり、この砂層内には摩耗した弥生時代中期～布留式の土器が含まれていた。古墳時代前期の河跡が存在する可能性がある。

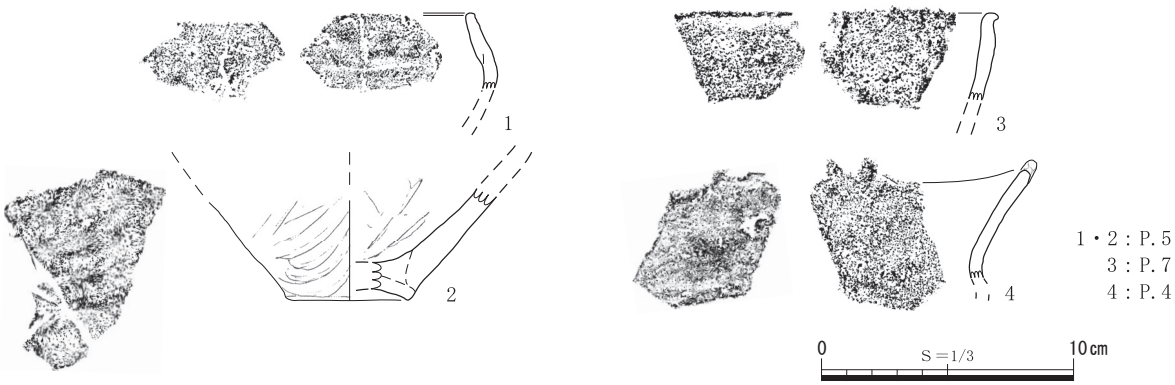
２．４世紀後半の円筒埴輪の大形破片をP.４の西側堤防北端で採集している。

３．６世紀後半～８世紀前半の土師器・須恵器をP.２～４にかけて多く採集した。破片の状態も良く、ほぼ採集地点が原位置で何らかの遺構があった可能性が高い。P.４地点では黄褐色砂層があり、８世紀前半の土師器と須恵器がまとまっていた。

４．中世の遺物はP.６の地点、近世の遺物はP.１とP.２の地点で採集しており、局地的である。

（２）中の橋川－東側地区

この地区は水路擁壁設置のための掘削を、中の橋川の東側南の小字「榎本」から北方へ「初田」・「内田」・「西ノ辻」と延長650mにわたって掘削されたものである。その中で詳細を確認できたのは「内田」の地区のみであり、他については不明である。この「内田」地区は、その坪界の東側・北側・西側を掘削しており、各々「内田E」「内田N」「内田W」として採集するとともに土層の堆積状況と出土層位も確認した。工事掘削は幅約２mであるが、深さは地点により異なり表土から0.5～1.0m



第３図　採集遺物（縄文土器）１

で、南側（「初田」）が浅く北側（「西ノ辻」）が深かった。これら地区での基本的な層序は、上から表土層（耕作土）20cm前後、床土層20cm前後、茶褐色土層15～20cm前後、黒褐色土（粘質土）層40cm前後であった。茶褐色土層は中世から古代の遺物包含層、黒褐色土（粘質土）層は弥生時代の遺物包含層と思われ、上下約20cmで分層できる可能性のあるものであった。「内田E」では、地表から深さ0.6m前後の黒褐色粘質土層から大和第Ⅲ－２様式（炭や焼土を含む）と大和第Ⅵ－４様式の土器が地点ごとにまとまって採集した。この地点の遺物は完形品・半完形品などが多く、なんらかの遺構が存在した可能性が非常に高く、この部分を工事掘削で縦断したと思われる。

古代～近世の遺物は、初田・内田・西ノ辻の各地区でも採集しているが、摩耗しているものも多くあり、水田耕作による包含層化した土層内に含まれていたものであろう。

４．採集遺物

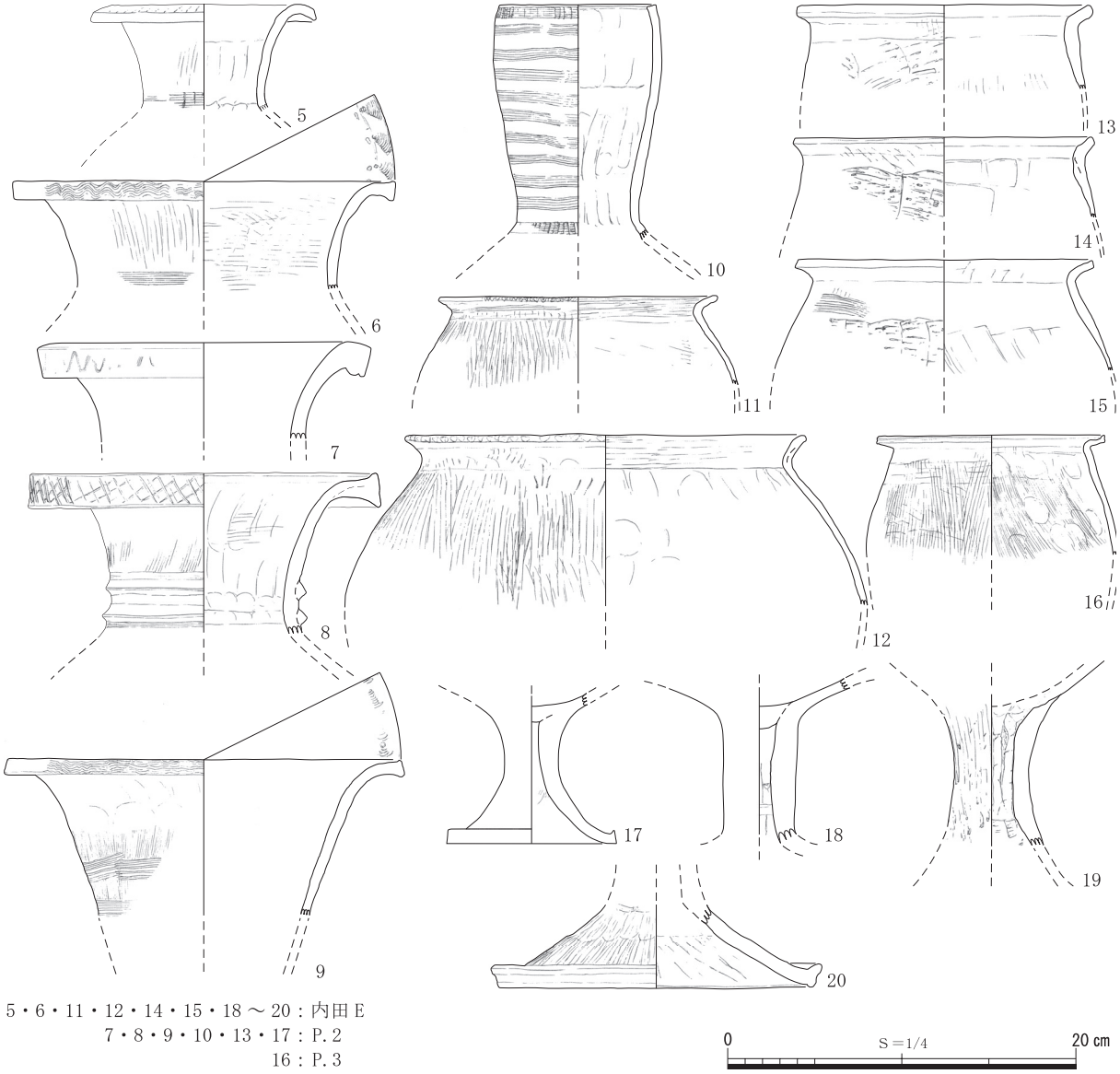
採集遺物はコンテナ約10箱分で、縄文土器（後・晩期）・弥生土器（中・後期）・古式土師器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・中世陶器・近世陶磁器などの土器類、円筒埴輪・瓦質土管・サヌカイト製打製石器と剝片・磨製石斧・砥石・碧玉製管玉などがある。最も多いのは、弥生土器と古代の土師器・須恵器である。地点ごとの様相については、第１表にまとめた。

縄文土器（第３図－１～４）

１は縄文後期中葉頃と考えられる深鉢の口縁部である。口縁部は頸部から屈曲して内湾する。口縁端部はわずかに面をもつ。内面には接合痕がみられる。２は後期末頃の深鉢の底部である。凹底で、外面には不明瞭であるが、幅広の巻貝条痕がみられる。条痕後、ナデを施している可能性がある。３は晩期の深鉢の口縁部である。外面にはわずかにケズリが見られる。４は浅鉢の口縁部で、凸起を作り出している。内外面はやや摩耗しているが、ミガキ調整が施されている。いずれも河川敷地区のP.４・５・７地点採集である。

弥生土器（第４図－５～20、第５図－21～40）

５～20は、大和第Ⅲ－２様式を中心する土器である。５～８は広口壷、９は広口長頸壷、10は細頸壷である。いずれも櫛描直線文・波状文を施すものが多いが、８の口縁部はヘラによる斜格文、

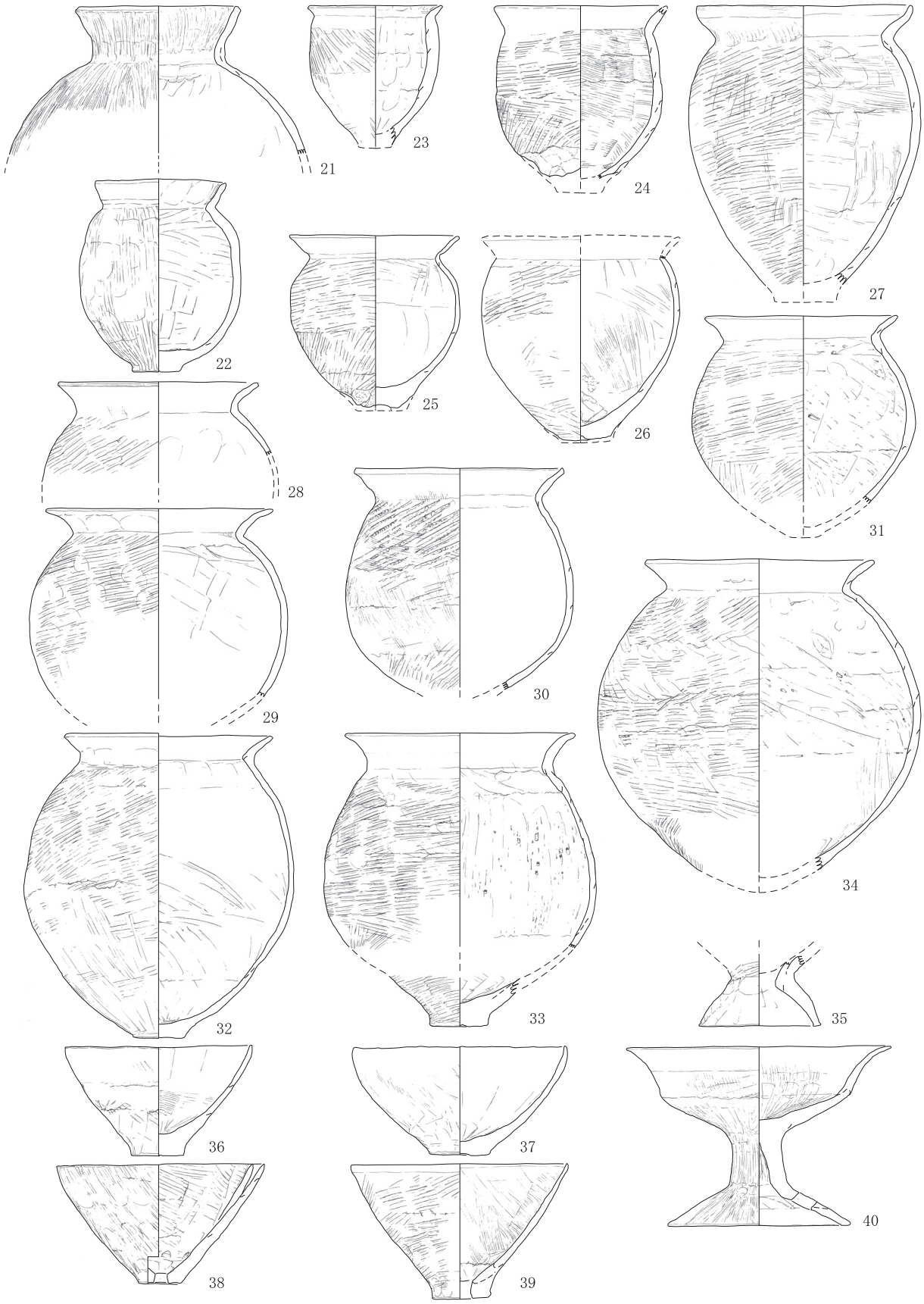


5・6・11・12・14・15・18～20：内田Ｅ
7・8・9・10・13・17：P. 2
16：P. 3

第４図　採集遺物（弥生土器）２

頸部下端には断面三角形凸帯２条を巡らすもので、紀伊・摂津系統の土器であろう。９の広口長頸壷は上方へ大きく開く口頸部を有し、口縁部は上下にわずかに肥厚する程度で厚みはない。口縁部上端に扇形文を巡らす。11・12は大和形甕で、胴部に膨らみがみられるようになる。12の胴部上端に小動物爪痕がある。13～15は四分形甕で、胴部上半まで横位のケズリ調整を施し、器壁を薄く仕上げる。15の口縁部はやや面をもつ。また、胴部最上部のケズリの及ばない部分に櫛描直線文が局部的に施文している。16は瀬戸内系の甕で、頸部の屈曲は明瞭で口縁部は上方へ肥厚する。17～20は、高坏あるいは台付鉢の脚部である。17～19には円盤充填技法がみられる。19の脚部内面にはケズリがみられることから大和第Ⅲ－３様式まで下る可能性があるだろう。７・13・16・17は河川敷地区採集の土器でやや摩滅している。これらを除く土器は、東側の内田Ｅ地区採集土器である。

21～40は、いずれも内田E地区から採集した土器で、ほぼ同一地点採集の完形土器を含む一括性の高い土器群である。大和第Ⅵ－４様式で庄内式に並行するものであろう。21は広口壷で、口縁部



21 ～ 40：内田 E

S＝1/4　0　20 cm

第 5 図　採集遺物（弥生土器）3

は上外方へ短く開く形状で口縁部から胴部を縦位のミガキ調整を施す。22は小形の壷で口縁部は短く外反する。外面はミガキをおこなう。23～34は甕で、器高が15cmまでの小形品（23～26）、15～20cmまでの中形品（30・31）、20～25cmまでの大形品（27・32～34）に大きく分けることができる。23・24・27のように縦長の球形の胴部を有するものもあるが、多くは球形の胴部に突出度の低い底部が有するものである。外面は胴部中央あたりで右上がりのタタキ方向を若干変えるが、全面にタタキが及ぶ。口縁部は短く外反し端部は丸い、あるいは薄くなるものが多い。27は器壁が全体に厚く、口縁部は受口状を呈す。31～34の内面はケズリをおこなうが、32・33のケズリは器壁を薄くするに至っていない。31・34は黒褐色を呈し角閃石を含むことから盆地東南部産と考えられる。35は台付甕の脚台である。やや内湾ぎみに立ち上がるもので、脚台から甕底部は一体的に作っている。

36・37は小形鉢、38・39は有孔鉢である。37は椀状を呈すが、それ以外は底部から直線的に外上方に立ち上がる。40は高坏である。坏部は口縁部が外湾ぎみに立ち上がり、口縁部は薄く丸く収める。脚部は短い脚柱部にやや内湾ぎみに拡がる裾部を有する。

古代の土師器・須恵器（第６図ー41～72）

41～49は土師器、50～72は須恵器である。

41～44は椀、45は鉢である。41は底部にケズリ、42もケズリをおこなっているようであるが、ナデで仕上げている。43・44の内面の側面では斜格の暗文、44の底面には輪状暗文を入れる。46は高坏である。坏部外面から脚部にかけてケズリを施し、脚柱部は面取りをおこなう。脚内面はケズリ、裾部はヨコナデをおこなう。47は長胴の甕、48は球形の胴部の甕である。49は形態不明で、胴部上半を口縁部とするものである。口縁部はケズリによって面をもち鋭い。内外面はハケ後ナデ調整で仕上げる。淡褐色でやや硬めの焼成で古代の土師器としては違和感のあるものである。41は６世紀後半、43は７世紀前半、44・46～47は8世紀前半であろう。

50は蓋坏で、天井部から口縁部までなだらかな形態で、口縁部は丸い。天井部に1本線のヘラ記号を刻む。51～54は坏身で、口縁部の立ち上がりは短く内傾する。底部は丸みを呈している。54はやや口径が大きくなり、高さは低くなっている。55は小形の短頸壷である。56・57は長頸壷、58は内外面に　がかかる底部の破片で台付長頸壷と思われる。59は堤瓶の胴部片の可能性がある。60は大甕の口縁部で、頸部の直線文間にはヘラによる縦線を充填している。これらの須恵器は６世紀後半に属すると思われるが、56・57は少し新しくなる可能性もある。

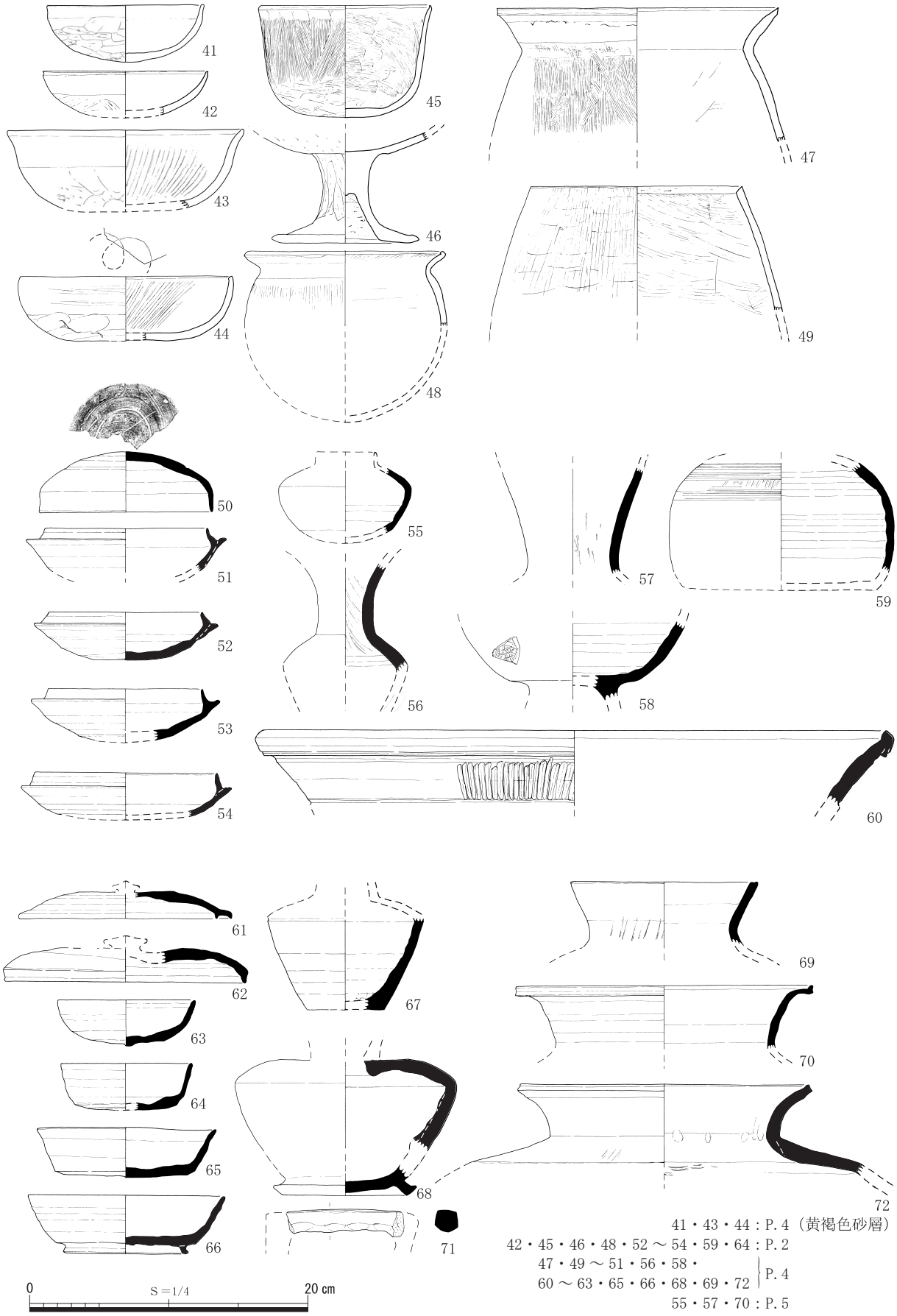
61・62は蓋坏で、いずれも器高は低い。61の内面には短いかえりがつく。63～66は坏身である。形態的には口径が10～14cm、底部が丸みのあるものから平底、高台がつくものがある。67～70は壷、71は平瓶の把手、72は大甕である。

これらは７世紀前半を含みながらも多くは８世紀前半であろう。

ミニチュア土器・墨書土器・線刻土器（第７図ー73～76）

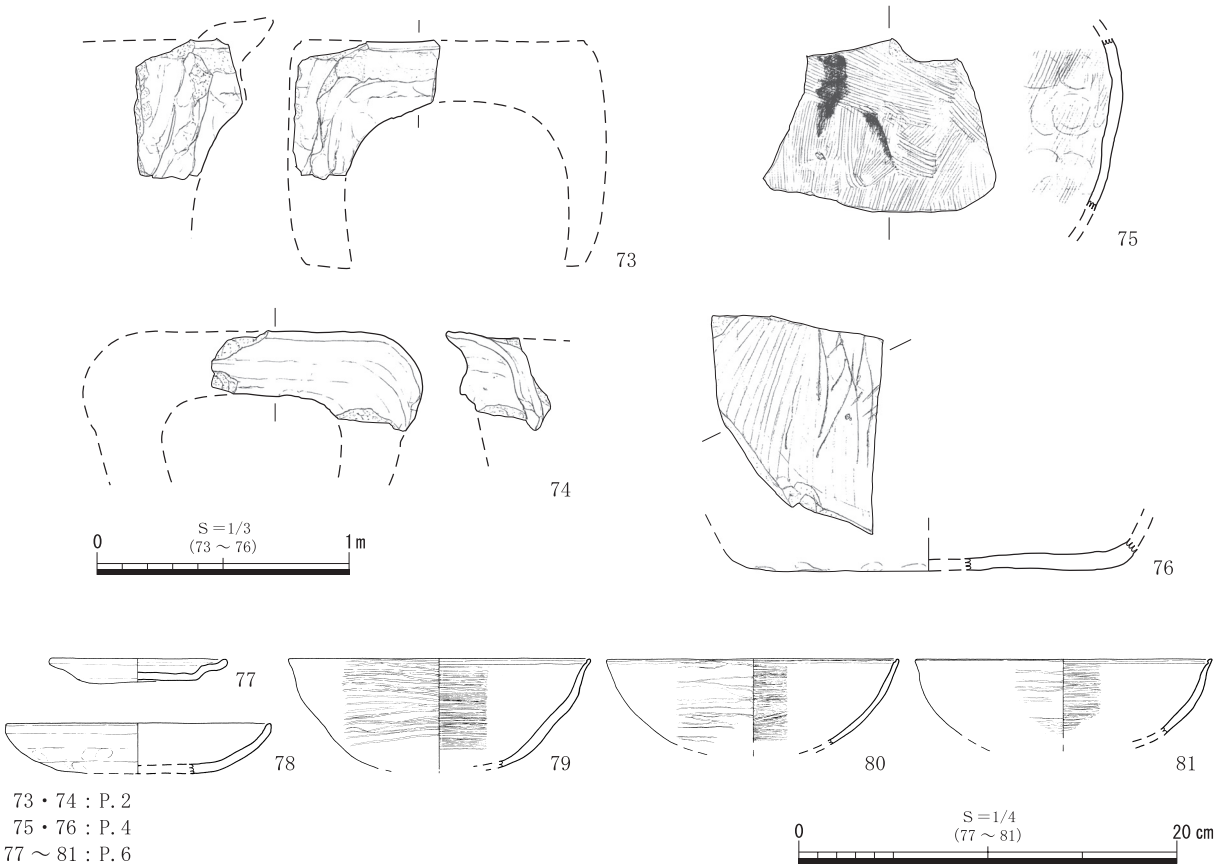
73・74はミニチュアの竈で、庇部分の破片である。庇は貼付けで、ナデ調整をおこなっている。

75は土師器甕の胴部片と思われるもので、胴部中央に墨痕がみられることから墨書人面土器の可能性があるものである。76は坏の底部片である。内面には放射状の暗文がみられる。また、後刻の



41・43・44：P. 4（黄褐色砂層）
42・45・46・48・52 ～ 54・59・64：P. 2
47・49 ～ 51・56・58・
60 ～ 63・65・66・68・69・72 } P. 4
55・57・70：P. 5
67・71：P. 2-S

第 6 図　採集遺物（土師器・須恵器） 4



第７図　採集遺物（ミニチュア土器ほか）５

針書きの線刻画がみられ、左手に弓を持つ人物と思われるものが刻まれている。

中世の土師器・瓦器（第７図－77～81）

77・78は土師器の小皿・中皿で、77は「て」の字口縁の皿である。79～81は瓦器椀で、いずれも内面には緻密な横位のミガキを入れる。

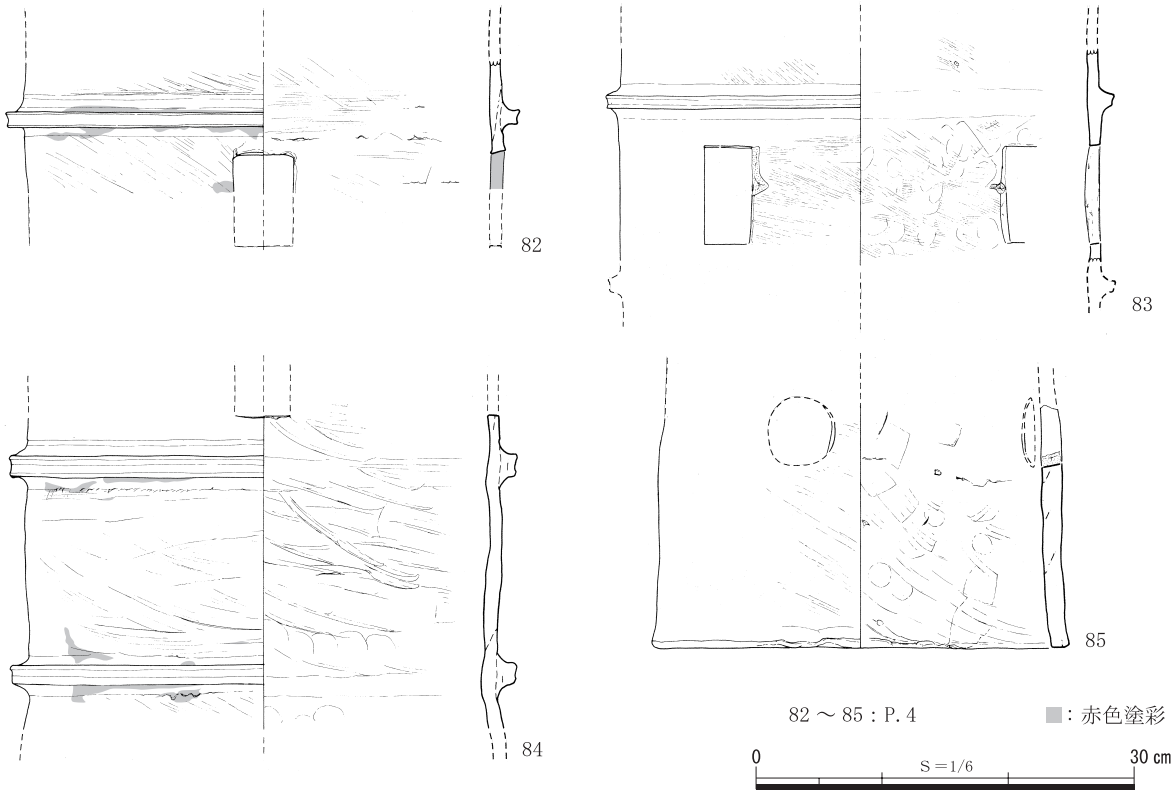
円筒埴輪（第８図－82～85）

82～84は長方形の透孔を有する体部片、85は円形の透孔をもつ裾部片の円筒埴輪である。いずれもタガは高く突出し、M字を呈している。内外面とも細条のハケ調整を施した後、ナデ調整でハケを消している。82・84の外面には赤色塗彩が残存している。

石器類ほか（写真３－86～92、第９図－93～97）

86～93はサヌカイト製の打製石器で、86～91は石鏃で凹基式、柳葉形の石鏃である。92は石錐、93は石剣で切先を折損する。ほぼ平行する刃部をもち、基部には自然面が残る。

94は小形の磨製石斧である。基部よりやや広がる刃部を有する両刃の石斧である。刃部と側辺の一部が欠損している。95は碧玉製管玉である。長さ1.83㎝、径0.86㎝で、両側から穿孔している。96は拳大の扁平な円礫で、敲石と考えられるものである。平たい面とその側辺には擦痕と敲打による



第８図　採集遺物（円筒埴輪）６

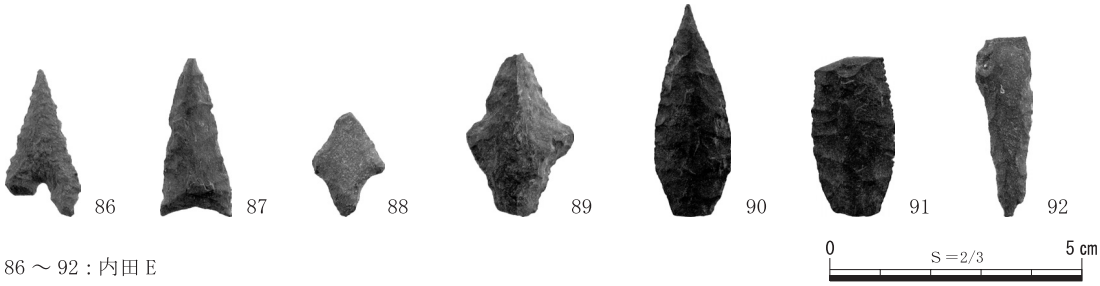


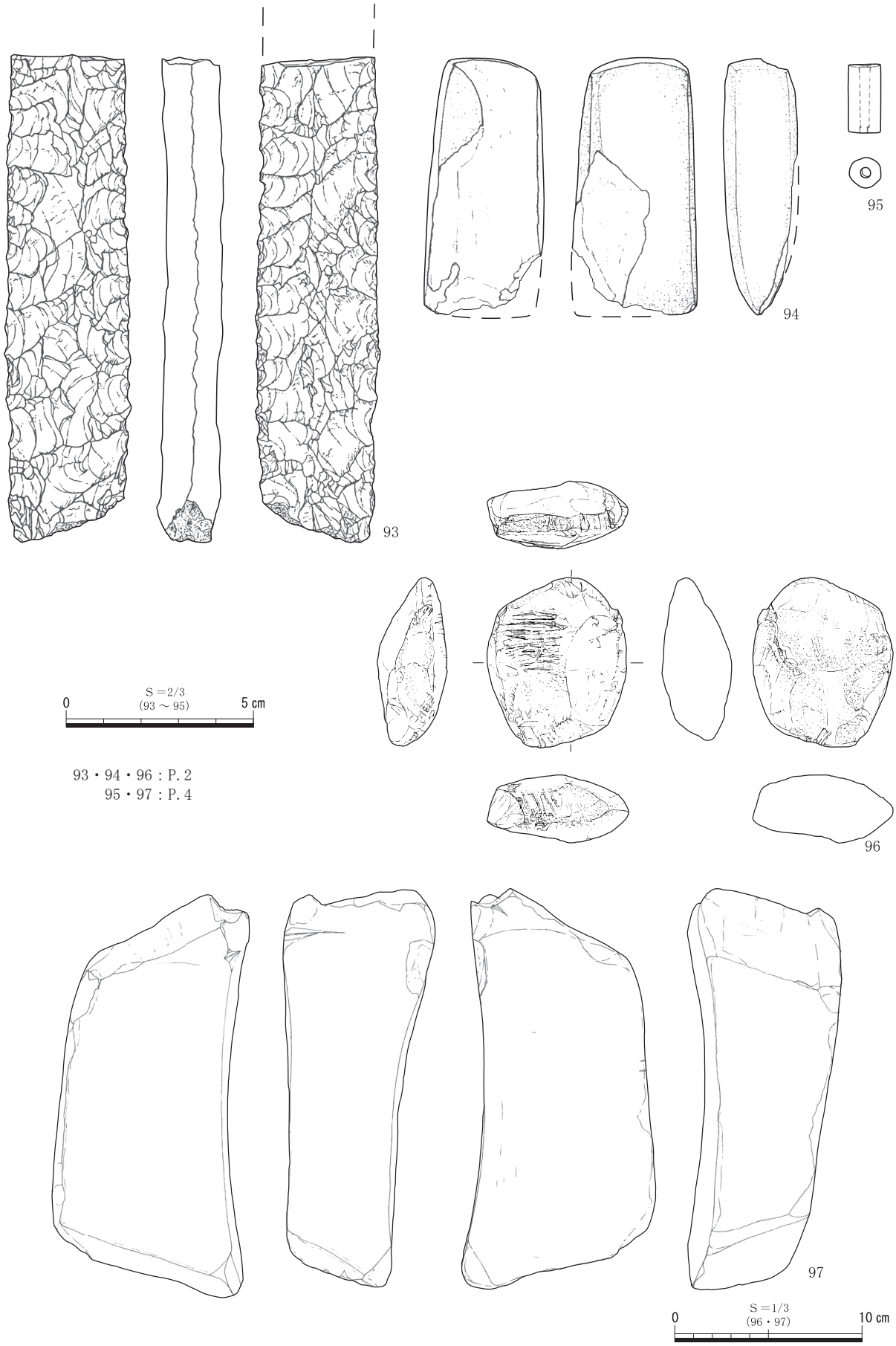
写真３　採集遺物（石製品）７

若干のつぶれがみられる。97は長さ21.5㎝、幅10.6㎝、重さ1.5kgもある大形の直方体を呈する砥石である。側辺は使用により、いずれの面もやや内湾ぎみとなり中央が凹んでいる。

５．まとめ

今回、紹介した遺物は縄文時代から中世までの採集品で、この遺跡の特徴をよく表した遺物と考えられる。以下に時代ごとに整理しておく。

１．縄文時代のものとしては、後期と晩期の土器がみられた。この他、小形の凹基式の石鏃もこれらに伴う資料の可能性が高い。これら遺物は少量であるが、田原本町内のような盆地低地部では数少ない縄文遺跡のひとつとして追加されることになる。町内の縄文遺物の出土遺跡としては、保津・宮古遺跡、矢部遺跡、秦庄遺跡などが知られ、田原本町西部（筋違道周辺）に遺跡が点在することになる。この周辺は盆地の中でも比較的安定した土地であったと考えられると



第 9 図　採集遺物（石製品）4

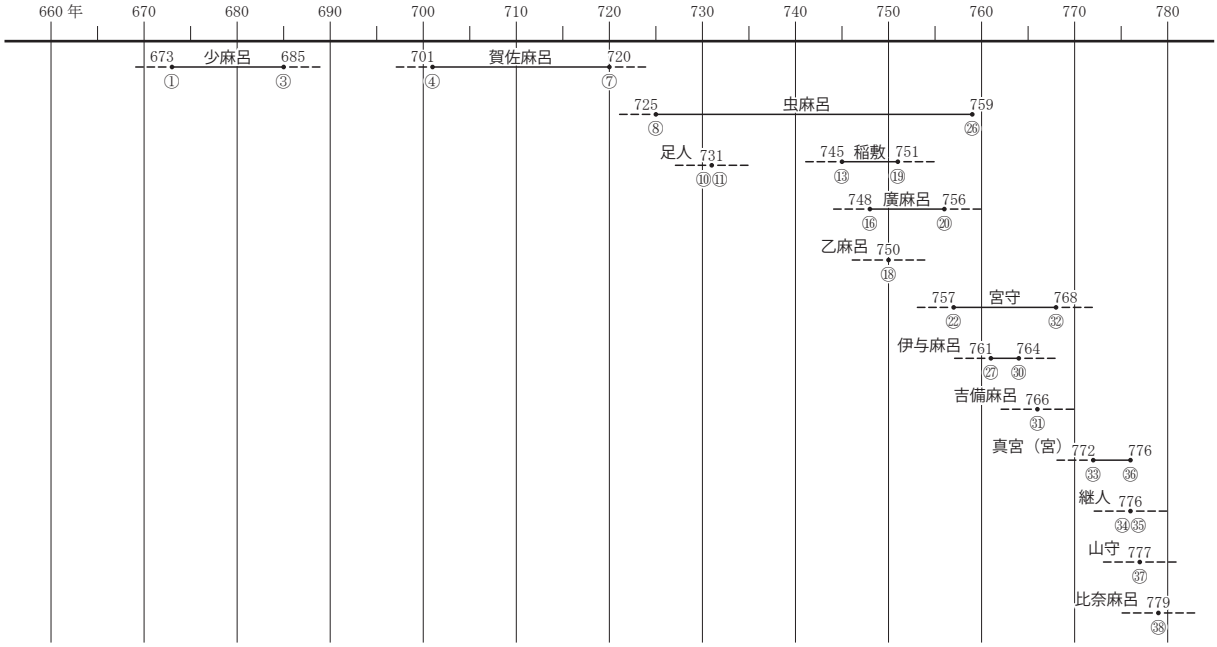
ころであり、佐味遺跡もそのような立地の条件のもと存在した遺跡と考えられるであろう。

2．弥生時代は大和第Ⅲ－４様式の台付鉢１点がみられるが、総体としては大和第Ⅲ－２様式前後の土器が主体である。このことからこの時期の短期的な遺跡であろう。第２次調査の成果では方形周溝墓が検出されており、今回の採集遺物も同様な性格の遺物とみなすのか、墓域に隣接する集落遺跡の遺物とするのか判断しがたい。採集地点としては、河川敷地点は摩耗していることから、内田地区を中心とした広がりをもたない範囲が想定されるであろう。遺物としては、四分形甕が一定量存在した。本遺跡は飛鳥川流域にあり、盆地南西部に多く展開する四分形甕の影響が及ぶ範囲であったことを示しているであろう。

内田E地点採集の大和第Ⅵ－４様式の土器は、採集とはいえほぼ一括性の高い資料としてとらえることができる。甕胴部の球形化、底部の丸底化、ケズリ手法の一部採用など形態・手法

第２表　『日本書記』『續日本紀』記載の佐味氏名一覧表

①	673年	天武天皇元年６月	佐味君宿那麻呂			
②	684年	天武天皇13年11月	佐味君			
③	685年	天武天皇14年９月	佐味朝臣少麻呂	山陽使者		任官
④	701年	文武天皇４年５月13日	佐味朝臣賀佐麻呂	遣新羅小使		任官
⑤	705年	慶雲２年12月27日	佐味朝臣笠(賀佐)麻呂		正六位下	授位
⑥	715年	靈亀元年４月25日	佐味朝臣加作(賀佐)麻呂		従五位上	授位
⑦	720年	養老４年正月11日	佐味朝臣加佐(賀佐)麻呂		正五位下	授位
⑧	725年	神亀２年11月10日	佐味朝臣虫麻呂	中務少丞	従五位下	授位
⑨	729年	天平元年２月10日	佐味朝臣虫麻呂	衛門佐	従五位下	
⑩	731年	天平３年正月27日	佐味朝臣足人		外従五位下	授位
⑪	731年	天平３年６月13日	佐味朝臣足人	中衛少将	外従五位下	任官
⑫	743年	天平15年５月５日	佐味朝臣虫麻呂		従五位上	授位
⑬	745年	天平17年正月７日	佐味朝臣稲敷		外従五位上	授位
⑭	745年	天平17年９月18日	佐味朝臣虫麻呂	越前守	従五位上	任官
⑮	747年	天平19年９月23日	佐味朝臣虫麻呂	治部大輔	従五位上	任官
⑯	748年	天平20年２月19日	佐味朝臣廣麻呂		従五位下	授位
⑰	748年	天平20年２月25日	佐味朝臣虫麻呂		正五位下	授位
⑱	750年	天平勝寶２年４月朔	佐味朝臣乙麻呂		従五位下	贈位
⑲	751年	天平勝寶３年正月25日	佐味朝臣稲敷		従五位上	授位
⑳	756年	天平勝寶８年５月３日	佐味朝臣廣麻呂	養役夫司	従五位下	
㉑	757年	天平寶字元年５月20日	佐味朝臣虫麻呂		従四位下	授位
㉒	757年	天平寶字元年６月28日	佐味宮守			
㉓	757年	天平寶字元年７月５日	佐味朝臣宮守			
㉔	759年	天平寶字３年５月17日	佐味朝臣宮守	亮	従五位下	任官
㉕	759年	天平寶字３年７月３日	佐味朝臣虫麻呂	中宮大夫	従四位下	任官
㉖	759年	天平寶字３年10月19日	佐味朝臣虫麻呂			卒
㉗	761年	天平寶字５年正月２日	佐味朝臣伊与麻呂		従五位下	授位
㉘	762年	天平寶字６年８月11日	佐味朝臣伊与麻呂	授刀大尉	従五位下	
㉙	763年	天平寶字７年正月９日	佐味朝臣宮守	安房守	従五位下	任官
㉚	764年	天平寶字８年正月21日	佐味朝臣伊与麻呂	豊前守	従五位下	任官
㉛	766年	天平神護２年９月	佐味朝臣吉備麻呂			
㉜	768年	神護慶雲２年閏６月３日	佐味朝臣宮守	越後守	従五位下	任官
㉝	772年	寶亀３年正月10日	佐味朝臣真宮		従五位下	授位
㉞	776年	寶亀７年正月７日	佐味朝臣継人		従五位下	授位
㉟	776年	寶亀７年３月６日	佐味朝臣継人	宮内少輔	従五位下	任官
㊱	776年	寶亀７年５月13日	佐味朝臣宮		散事従四位下	卒
㊲	777年	寶亀８年正月７日	佐味朝臣山守		従五位下	授位
㊳	779年	寶亀10年９月28日	佐味朝臣比奈麻呂		従五位下	授位



から庄内式初頭に属する遺物であろう。この時期の遺物も河川敷地区より内田地区が中心とみて良さそうである。この時期の遺跡は、小規模なものが急増する傾向があり、奈良盆地南部の一連の動きの中でとらえることができよう。

3．古墳時代前期のものは本報告では掲載しなかったが、地元で河川敷より布留１式の甕の完形品が採集されており、この時期の遺物は少量ながら存在する。このことから弥生時代から断続的に集落が営まれたと考えられる。

円筒埴輪は４個体分の大形破片で、方形透孔と黒斑、赤彩を有するものである。付近に古墳が存在する可能性が少なく、単独出土の可能性が高い。埴輪棺に転用した可能性もあるが、性格付けが困難で有り、盆地低地部におけるこの時期の円筒埴輪の出土例を待ちたい。

4．古代の遺物は、河川敷地区のP.２～４にかけて多く採集した。特に６世紀後半～８世紀前半の土師器・須恵器が多い。中でも墨書（人面？）土器の可能性のあるものやミニチュアの竈片、線刻絵画の皿など注目される遺物がある。これら古代の遺物の位置づけについては、文献で年代的に該当するものに、『日本書記』天武天皇元年六月（673年）の「佐味君宿那麻呂」が初見で、天武天皇十三年には朝臣姓を賜り、文武天皇四年（701年）「佐味朝臣賀佐麻呂」から宝亀十年（779年）までの間、第２表に示すように「佐味朝臣虫麻呂」、「佐味朝臣足人」、「佐味朝臣稲敷」、「佐味朝臣広麻呂」、「佐味朝臣乙麻呂」、「佐味朝臣宮守」、「佐味朝臣伊与麻呂」、「佐味朝臣吉備麻呂」、「佐味朝臣真宮（宮）」、「佐味朝臣継人」、「佐味朝臣山守」、「佐味朝臣比奈麻呂」ら多くの同族の名が見られ[4]、彼らのいずれかが本地と何らかの関わりをもっていた可能性が高いであろう。唐古・鍵遺跡の田中庄にみられるように田原本町内においては、その後の在地武士の台頭により荘園が彼らの居館へと変遷する例があり、この佐味遺跡においても『大乗院寺社雑事記』にみる「佐味氏」の存在が窺えることから、その前身を示す可能性があるだろう。

最後になったが、奈良県立橿原考古学研究所の岡田憲一氏には縄文土器についてご教示を賜った。記して感謝いたします。

註

1）奈良県立橿原考古学研究所編　1971『奈良県遺跡地図 第２分冊』奈良県教育委員会

2）秋山日出雄編　1985『大和国古墳墓取調書』財団法人由良大和古代文化研究協会

3）末永雅雄　1962「歴史」『平野村史』平野村史刊行会

4）佐伯有清　1982『新撰姓氏録の研究　考證篇 第二』吉川弘文館

参考文献

黒板勝美国史大系編集会編　1981『續日本紀　前篇』吉川弘文館

黒板勝美国史大系編集会編　1981『續日本紀　後篇』吉川弘文館

黒板勝美国史大系編集会編　1984『日本書記　後篇』吉川弘文館

竹内理三編　1976『寧楽遺文　中巻』訂正四版　東京堂出版

六國史索引編集部　1967『續日本紀索引』吉川弘文館

田原本町文化財調査年報23
2013年度

平成27年 3 月30日

編集発行　田原本町教育委員会
印　　刷　株式会社　明新社